

商大レビュー

S h o d a i R e v i e w

Vol.34
2025.3

地域と

呼吸する

大学

06

フィールドスタディ

番田芋プロジェクトの進展

— 産学官連携による
地域ブランディングの取り組み —

14

フィールドスタディ

フィールドスタディの取り組み

20

大学コンソーシアム岡山

大学コンソーシアム岡山・
第10期会長校

23

地域連携

大学祭改革

～ 新しい大学祭の姿を追って ～

Index

巻頭言

- 04 大学社会の変貌と課題
岡山商科大学 学長 経営学博士 井尻 昭夫

- 05 地域の未来のために
株式会社天満屋 代表取締役社長 斎藤 和好

フィールドスタディ

- 06 番田芋プロジェクトの進展
ー 産学官連携による地域ブランディングの取り組み ー
経営学部商学科 助教 西 春奈

番田芋プロジェクトでの学び
経営学部商学科 4年 原田 喜世佳

- 08 ホタルの夕べ in 北房
経営学部商学科 教授 三好 宏
ひなせかき(夏季)カキフェス
経営学部商学科 教授 三好 宏

- 09 瀬戸内市 発想法ワークショップ
経営学部商学科 教授 三好 宏

- 10 中国四国農政局「倉敷市下津井地区農泊モニターツアー」
産学官連携センター
湯原温泉「露天風呂まつり」「はんざき祭り」のイベント協力
経営学部商学科 准教授 大石 貴之

- 11 総社市インターンシップ
産学官連携センター
総社市インターンシップに参加して
法学部法学科 3年 岩野 美咲

- 12 中国四国農政局インターンシップ
産学官連携センター
「中国四国農政局インターンシップ」に参加して
法学部法学科 3年 西尾 心虎

- 13 コノヒトカン 1000 缶プロジェクト
産学官連携センター
「コノヒトカン 1000 缶プロジェクト」に参加して
経営学部経営学科 2年 行本 理人

- 14 フィールドスタディの取り組み

包括協定

- 18 トヨタレンタリース新岡山と
包括連携協定を締結しました

明德義塾高等学校との
「包括連携協定締結」について
- 19 公益社団法人岡山青年会議所との間に、
包括連携協定を締結しました

大学コンソーシアム岡山

- 20 大学コンソーシアム岡山・
第10期会長校

科学研究費助成事業

- 21 科学研究費助成事業への取り組み

文部科学省補助金

- 22 令和6(2024)年度
私立大学等改革総合支援事業

副学長 田中 康秀

地域連携

- 23 大学祭改革 ～新しい大学祭の姿を追って～

学生部長 経営学部商学科 教授 吉田 信

高大連携

- 24 「真庭型産業人材育成プログラム」の
活動と成果

岡山県立真庭高等学校 校長 竹内 成長
教諭 杉本 祥汰
- 25 PBL から新たな挑戦
～さんフェア栃木から学んだこと～

岡山県立津山商業高等学校 校長 砂田 祐一
教諭 芳原 晨祐
講師 行成 太希

教職課程

- 27 中学校社会、高校商業の教員採用試験合格

経営学部商学科 教職課程担当 教授 吉田 信
- 「教職課程」について
経済学部経済学科 4年 花谷 尚志

キャリアセンター

- 28 売り手市場が更に強まった
25卒学生の就職活動

公務員合格者

- 29 合格者の声

慶應 MCC タ学講演会

- 30 『タ学(せきがく)オンライン』開催

2024年度「商大講座」

- 32 商大講座のご案内
実績・商大講座プログラム2024

学術トピックス

- 34 著書紹介
『ドイツ文学と映画』
経営学部商学科 教授 香月 恵里
- 著書紹介
『新経典日本語聴力教程』
『新経典日本語聴力教程 解説と練習問題集』(第二／三冊・第三版)
経営学部経営学科 教授 蘇 君業

寄附講座

- 35 (一社)岡山経済同友会 ボランティア・
プロフェッサー制度「岡山経営者論Ⅰ・Ⅱ」

孔子学院

- 36 2024年度 孔子学院活動報告

孔子学院 学院長 経営学部商学科 教授 黎 曉妮

商大塾

- 37 2024年度の商大塾を振り返り

社会総合研究所 次長
経営学部経営学科 准教授 吉良 友人

資格試験講座

- 38 資格試験合格者実績
合格者の声

研究所から

- 40 社会総合研究所後援会役員会を開催

社会総合研究所 次長 吉良 友人

- 41 所長挨拶 2024年度活動報告

社会総合研究所 所長 海宝 賢一郎

創設以降の活動経緯

- 42 附属経営研究所・社会総合研究所
1972(昭和47)年創設以降の活動経緯
- 44 編集後記

大学社会の変貌と課題

岡山商科大学 学長
経営学博士

井尻 昭夫



急速な少子高齢化、人口減少により、今後地域の衰退が大きく進むことが予測され、文部科学省はすでに2012年（H24）に「大学改革実行プラン—社会の变革のエンジンとなる大学づくり」を提唱した。それを受け2013年に知の拠点整備事業として77事業を採択し、これを契機として大学等における入学定員超過の適正化がすすめられるとともに、大都市への学生の集中化が抑制され、学生等の地方への定着等教育機関を核とした地域活性化が進められるに至った。その結果、2015年には知の拠点大学による創生推進事業として256校が参画した42事業が採択された。また、中教審は2018年に「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」を答申し、私立大学等改革総合支援事業がスタートし、爾来、毎年この事業は進められ、本学もこれに毎年対応してきた。この改革総合支援事業はおおむね4つのグループに関して自己採点を行い、応募者の上位から優れた大学に改革支援金が支給されるものである。募集は毎年行われ、そのチェックポイントは毎年高度な要件が突き付けられている。しかも、短い期間にチェックし評価しなければならず、常日頃から改革しておかなければ合格点が取れないという極めて非情的なやり方で進められてきた。

また、中央審議会は、「これからの時代の地域における大学の在り方について—地方の活性化と地域の中核となる大学の実現—」を発表しており、地域におけるこれまでの大学の役割として次の4つの事項をあげている。

- ・人材育成機関としての役割（必要不可欠な分野の従事者、地域産業のDXや、グローバル化を推進する人材、地域社会の活性化を推進する人材）
- ・高度な研究能力を有する機関としての役割（産業界等との連携、地域の発展や課題解決に資する取り組み実行）
- ・地域文化・歴史を発展・継承する役割（地域の魅力の発信）
- ・知と人材のハブとしての役割（海外等の他地

域との窓口）

大学審議会は、大学の使命として上記事項を明示した。今後の課題として、この方針に従い国及び地方公共団体・産業界等の大学の外部環境の整備・支援を進めるとともに、各大学に、次の3つの基本的な特色ある行動が求められている。

(1)「地域ならではの人材育成」

- ・卒業生に関する基礎データの収集・分析・共有
- ・実践的な長期インターシップ
- ・地方公共団体や企業が実施する奨学金の返還の活用
- ・短期集中型のプログラム構築等

(2)「地域ならではのイノベーションの創出」

- ・地方公共団体や産業界との窓口となる教職員・URAの配置推進
- ・大学院教育と学部教育との緊密・実質的な提携
- ・ジョブ型研究インターンシップの実施等

(3)「連携の推進」

- ・学長のリーダーシップの発揮による強みと特色の分析及び発信・広報
- ・高等学校等地域の初等中等教育機関との連携等

地方の活性化と地域の中核となる大学の実現に向けて、新たな挑戦の指針が示された。その背後には、かつて大学は「象牙の塔」と呼ばれ極めて閉鎖的であったが、今や大学も社会の中核組織であり、これまでの時代とは異なり急速に展開する社会ニーズに即し、時代をリードする人材育成が使命であることが強く示された。政府は積極的に改革総合支援事業を推進させるとともに、大学改革が優れている上位大学は補助金支援を受けることができる。まさしく「ニンジン」を掲げ馬車馬を力強く走らすがごとき状況にある。今日の大学は、教育・研究だけではなく、地域活性化の「知」の拠点としての使命を担うに至った。

いまや、地域振興の活性化に向けて大学は「知」の拠点として時代のリーダーという大きな使命が課せられるに至っていることを強く自覚しなければならぬ。

地域の未来のために

株式会社天満屋
代表取締役社長
斎藤 和好



昨年、弊社は創業 195 年を迎えることができました。1829 年に小間物店として創業し、呉服店を経て、1925 年に百貨店に業態転換し、本年は弊社グループの祖業である百貨店事業が 100 年という節目を迎えました。

これまで長きに亘って事業を継続することができたのは、ひとえに弊社と志を共にしたお取引先様の存在、また長い年月では商況が明るいつきばかりではなく、リーマンショックやコロナ禍による未曾有の社会活動の低迷期を経験する中で社員一人ひとりの前を向く力によるところが大きいと思っています。いつの時代においても私たちは、「どのような商品・サービスを提供すれば、事業展開している地域の皆様の生活・文化の向上に寄与することができるのか」を常に考え行動することで、上記のような時代変遷とともに業態を変化させることにより、今日を迎えることができました。改めて、地域の皆様のご支援に心より、感謝いたします。

さて、現在に至るまで経営理念である「優良商品の販売を通じて、地域社会の生活・文化の向上に寄与する」ために時代に適応した様々な取り組みを進めてまいりましたが、弊社の存在意義の源といえる「地域社会」そのものが将来的にシュリンクしていくという非常に大きな課題に直面しています。総務省による 2024 年人口移動報告では、転出から転入を引いた岡山県の転出超過数は、5583 人と全国で 10 番目の多さとなりました。過去 10 年間の転出超過数の推移をみると、コロナ禍という全国的に人口移動が極めて少なかった特殊な時期があるものの、総じて右肩上がり人口流出が拡大していることがうかがえます。岡山県の転出超過数を年代別にみてみますと、20～24 歳が 2927 人と最も多く、10 代から 30 代までの流出が顕著となっています。転出先は東京都、大阪府、兵庫県、神奈川県などの順となっており、東

京圏と大阪圏で大半を占めています。20 代の県外への流出が多い要因の 1 つとして考えられるのが、岡山の高校や大学で学んだ生徒や学生が東京や大阪をはじめとした都市部に進学、就職することです。それを裏付けるデータとして、2023 年度に卒業した県内大学生が地元で就職する「県内就職率」が 39.8%（前年比較△3.3pt）、また県外の大学から地元に戻ってくる「Uターン就職率」も 30.9%（前年比較△3.6pt）で過去最低となっています。

人口減少という課題に日本が直面する中、さらに当地域の若者人口の流出という重要な課題に對峙するにあたり、私たちも地域の一員として、地域社会の発展のためにできることに取り組んでいきたいと思っています。その 1 つとして考えているのが、岡山市北区旧市民病院跡地をサテライトキャンパスとして活用する構想案です。就職を機に岡山を離れる学生が多く、また県外から就職で戻ってくる学生が少ないという状況に対し、地域の企業を知る機会なく就職先を決めてしまうことは地域で活動する企業の一員としては非常に残念でもあります。将来有望な若者が自らの可能性を考える中で知らないという理由によって地域で就職する選択肢を減らしてしまうことはできるだけ避けなければなりません。人生において学生時代の貴重な時間を岡山で過ごす間、地域の様々なことを経験してもらいたい、その経験は学生にとっても、コミュニケーションする地域の方にとっても価値ある学びを生むのではないのでしょうか。

地方創生がバズワードのように様々な場面で目にしたり、耳にしたりします。弊社が 2 世紀近く事業を続けてくることができたのは、地域社会が発展してきたことが前提であり、言い換えますと地域社会が発展することが弊社の目的でもあります。微力ながら弊社グループの持つ力の限り、地域社会とともにこれからも歩んでまいります。

番田芋プロジェクトの進展

ー 産学官連携による地域ブランディングの取り組み ー

経営学部商学科 助教 西 春奈

1. はじめに

番田芋プロジェクトとは、生産者の高齢化と後継者不足の問題を抱える「番田芋」を後世に残すことをミッションとした産学官連携事業である。(株)なかや宗義(菓子製造業)、小倉産業(株)(お土産企画・卸売業)、(株)大江紙器(梱包資材製造業)、生産者、玉野市と本学が連携し進めている。2024年度も番田芋の知名度を高め需要を生み出すことを目標に、学生が(1)芋焼酎のリブランディング、(2)商品開発と販売、プロモーションを中心としたマーケティング活動に携わった。これまでの取り組み¹が評価され、25年3月、「第5回学生地域づくり・交流大賞」(主催：一般社団法人全国農協観光協会/後援：内閣府地方創生推進事務局ほか)の最終審査会において、優秀賞を受賞した。

2. 芋焼酎のリブランディング

第一に、経営学部商学科3年生16名が研究演習の中で、規格外の番田芋を使った芋焼酎のリブランディングに携わった。これは既存商品(商品名：紫笑伝)の製造委託先変更に伴うもので、連携企業から「番田芋スイートポテト」(22年10月発売)、「番田芋フロランタン」(24年6月発売)に次ぐ商品にしたいと、パッケージデザインの企画が求められた。24年4月、学生は大江紙器デザイン担当者よりパッケージデザインの考え方について講義を受けたほか、製造元の三光正宗代表取締役よりガラス瓶の費用や酒類の表示を学んだ[写真1]。



[写真1] パッケージデザインの講義

並行して、学生は3チームに分かれて市場調査とアイデア出しを行った。具体的には、芋焼酎市場の動向、他社製品の小売店や飲食店での取り扱い、想定したターゲット顧客層に対する飲酒頻度や焼酎の購買経験、購入意向に関するアンケート調査である。市場調査の結果を踏まえて、3つの初期デザインを提案した。その後、大江紙器からプロトタイプ6案が示された。学生は5月に実施した生産者へのヒアリングや番田地区の景観調査、試飲の結果も踏まえてスクリーニングを行った。パッケージから連想される味のイメージと実際の味わいの不一致等を理由に、2案に絞り込まれた。そして、12月の打ち合わせでブランド拡張と売り場陳列を考慮したデザインが採用され、25年3月末に発売の見通しとなった。

3. 商品開発と販売、プロモーション

第二に、経営学部の学生有志が同好会を立ち上げ、「人と人をつなぐ」をスローガンに番田芋のブランディングを推進している。具体的には、なかや宗義と共同開発した「紫いもの洋風どら焼き」の販売を通じて、番田芋の現状課題や魅力を消費者に伝えている。この商品は学生が23年7月に試作、同年11月にテストマーケティングを行い、改良を加えて24年5月の三井生協グルメフェスで発売に至った。商品名やパッケージデザイン、価格設定といった商品企画はもちろん、売り場のレイアウト、POP、需要予測など販売に関わる一連の活動を学生が担っている。玉野市内に加えて、本学が協定を結ぶ他地域のイベントにも出店の機会を得ることができた²[写真2]。



[写真2] いいもの発見! たまのフェアでの販売

さらに、番田芋の品質と本プロジェクトの取り組みを広めようと、生産者から買い付けた番田芋(品種

1 2023年度の活動は西春奈(2024)「番田芋プロジェクトへの参画ー玉野市番田地区の地域資源を活用したお土産品の開発ー」『商大レビュー』33, 18-19. を参照されたい。

2 詳細はpp.14-17 フィールドスタディの取り組みに掲載。

はシルクスイート)を焼き芋にして、第59回商大祭で提供した。(有)みどりの館みやま(道の駅みやま公園運営)から焼き芋機を借り、生産者に焼き方を教わりながらの挑戦となった。在庫調整に苦労しながらも2日間で約80kgを販売し、来場者から好評を得た。

こうした取り組みと同時に、学生はプロモーションも積極的に展開した。前述の活動について地域の新聞やテレビ、Webメディア、玉野商工高等学校報道部等、計7件の取材を受けたほか、Instagramアカウント(@sweetpotato_banda)を開設し、商品やイベント出店情報、産地の様子を発信している[写真3]。Instagram担当の学生は広告や消費者行動の理論を学びながら、投稿内容を工夫した。実践から得られたデータは卒業論文としてまとめられ、次年度の担当者に引き継がれている。



[写真3] 岡山商科大学番田芋プロジェクト Instagram

4. おわりに

今年度は地域の多くの支援や協力によって、より実践的にマーケティングを学ぶ機会が得られた。とりわけ、学生は消費者接点から見つかる大小様々な課題に対してその都度振り返りながら、ブランディングのみならずマーチャンダイジングについても学びを深めている。たとえば、イベント来場者の特性や立地を考慮した在庫数量や訴求点の調整、消費者の視線を考慮した販促物のデザイン等である。様々な要因を加味して意思決定する難しさに当初は戸惑っていた学生も、次第にマネジメント能力を高めていった。

一方で、ふれあいフェスティバル in 東児で実施したアンケート調査(2023, 2024)によると、番田芋の知名度は依然として約50%に留まっており課題が残る。また、認識の相違やインターネット上に誤情報もみられる。そこで、学生は春休み中も週に一度のミーティングを行い、解決策を模索している。その一環としてブランドサイトの制作を進めており、現在、番田芋の特徴や歴史について文献やヒアリングデータを整理している。これらの取り組みが、番田芋、そして地域の課題解決に寄与することを期待している。

番田芋プロジェクトでの学び

経営学部商学科 4年

原田 喜世佳

私は大学3年生から「番田芋プロジェクト」に参加しました。はじめは、玉野市の観光課題を解決するためのお土産を開発するフィールドスタディでした。そこから、玉野市番田地区の視察、地元企業らとの打ち合わせを経て、番田地区の特産である「番田芋」を活用したお土産の開発をし、知名度を上げる活動に取り組んできました。様々な学びがあった2年間でしたが、その中でも、特に自身の成長が感じられたことを紹介します。

「番田芋プロジェクト」の活動を広めるにあたって、学内ではサークルを立ち上げることにしました。私は副部長という役職に就き、外部の方との打ち合わせ資料をつくったり、部長とサークルの方針を話し合ったりしました。取り組みの中で難しかったのは、進め方です。マーケティングの講義を受けましたが、新商品の開発は実際には思い通りにいかないことばかりで、手探りで進めていくしかありませんでした。何

度も挫折も経験し、投げ出したくなることもありました。それでも、諦めずに試行錯誤することで、商品を完成させ、販売へと繋げることができました。自身の成長という点では、考える力を養うことができたと思っています。例えば、上手くいかないときにその理由と解決策を考えることは、簡単に答えの出るものではなかったのですが、何度も悩むことで次第に考える癖ができました。この力や、プロジェクトでの様々な経験は、社会人になって壁にぶつかったときの手助けになると思っていますので、大学で多くの実績を積むことができて本当に良かったです。

これらの素晴らしい経験ができたのは、サポートしてくださった教職員の方々、共に取り組んできた仲間たち、様々な挑戦ができる環境のおかげです。本当にありがとうございました。

この活動は、元気いっぱいな後輩たちが引き継いでくれます。これからの彼らの活躍に期待しながら、私も社会人として頑張ろうと思います。

ホテルの夕べ in 北房

経営学部商学科 教授 三好 宏

日本一のホテルの里を標榜する真庭市北房では、毎年ホテルが飛び交う6月に「ホテルの夕べ」というイベントを行っている。本学は新型コロナで中断した年を除き、2018年よりその運営をお手伝いしている。2024年は6月8日と15日の2回開催され、学生6名、教職員3名、そしてこの年に包括連携協定を結んだ（株）トヨタレンタリース新岡山従業員10名とともに参加した。今年の内容はこれまでの物販やその補助とは趣を変え、子供たちを対象とした「ランタンづくりワークショップ」を開催した。この目的は、ホテルにやさしい赤色に灯るランタンを制作してもらい、それで足元を照らしながらホテルを楽しむという、ホテル観賞マナー向上の啓発活動も兼ねたものである。そして、ワークショップで頂戴する参加費500円からその費用を差し引いた額を地元のホテル保存会に寄付し、その活動に役立ててもらおうという思いもあった。

ランタンは、プラスチックのカップに絵を描いたり、マスキングテープによる模様で飾ったりした

後、ろうそく型のLEDを入れ、持ち手となる割りばしにひもで吊り下げるといったものである（写真参照）。8日はあいにくの大雨でやむなく中断となったが、15日は良いお天気に恵まれ、2日間で合計147名の子供たちに楽しんでもらった。補助をする学生たちは小さい子供たちに慣れずに戸惑っていたが、次第に声を掛けながらサポートができるようになり、コミュニケーション能力の向上にもなったと思われる。

なお、7月9日に地元の里山里海交流館「しんぴお」にて寄付金の贈呈式が開催され、ワークショップで得た利益の全額42,980円を保存会の代表者にお渡しし、大いに感謝された。



ひなせかき（夏季）カキフェス

経営学部商学科 教授 三好 宏

備前市日生では初の、夏（夏季）にカキを題材とした食のイベントが、2024年7月7日に五味の市において開催された。同地域はカキ入りお好み焼き、いわゆる「カキオコ」（日生カキオコまちづくりの会によって商標登録）が有名で、多くの訪問客を集める地域である。しかし、瀬戸内海のカキは「冬」というイメージが強く、夏場は閑散としているのが実情である。またそのカキオコを提供する店舗も高齢化が進み、JR日生駅周辺にある14店舗のうち6店舗の店主が75歳以上で、うち5店舗で後継者がおらず、店主が引退すれば即廃業となる見込みである。新たに開業する店舗が現れなければカキオコ店の減少につながり、やがては日生地域全体の盛り上がりも欠けることになってしまう。こうした問題の解決に向け、夏でも集客できるまちを目指して今回のフェス開催に至った。

フェスは、まず主催者として同まちづくりの会、日生町漁協、備前観光協会、地域商社YoMAなどによるカキフェス実行委員会が立ち上げられた。そして「ひなせは年中カキが楽しめるまち」をコンセプトに、カキオコ店、移住者のカフェなど7店舗が出店し、全国牡蠣-1グランプリ加熱部門で1位を獲得した日生の冷凍牡蠣を使い、カキオコ



バーガー、オイ星（スター）チーズボールといった新メニューで味を競い合った。漁協からは日生産岩ガキも初披露され、40分待ちの行列もできたほどである。食以外も備前緑陽高生による牡蠣殻色付けワークショップや、アクセサリーづくりのブースも設けられ、当日は大勢の家族連れでにぎわった。このフェスには学生14名、教職員4名に、包括連携協定を結んだ（株）トヨタレンタリース新岡山従業員13名も加わり、運営をサポートした。なお、カキフェスは2025年4月20日（日）に第2回が開催されることが決まっており、本学は引き続き学生、教職員がこれに協力する予定である。



瀬戸内市 発想法ワークショップ

経営学部商学科 教授 三好 宏

2022年度から請け負っている瀬戸内市役所入職5年目の若手職員研修事業「発想法ワークショップ」を、本年度も2024年8月28日に実施した。これは過去2回と同様に、本学学生も混じりブレインストーミングとKJ法のグループワークを行うというものである。このワークショップでは、斬新でユニークな発想力を養うことを一つの目標としており、それを引き出すために、被り物やくすつと笑えるグッズ（例えば奇抜な蝶ネクタイ）などを装着してもらい、ある意味遊び感覚で取り組んでもらっている。

今回は市職員18名と学生5名が4グループに分かれ、自己紹介を兼ねたアイスブレイクの後、午前の部のブレインストーミングがスタートした。昨年の2回目は少し盛り上がり欠けたところがあったので、今年のワークのテーマは少しでも職員たちにとって身近な「あったらいいな、こんな市役所♥ 市役所をワクワクしよう!」と題し、自分たちが考える理想の市役所を発想してもらった。こちらの狙いがうまくはまったのか、今年の参加者はまさに自由な発想で、斬新な市役所の形をカードに書き込んでいった。

お昼休憩をはさんで午後はKJ法によって出されたアイデアを、似たもの同士に分類する作業に移る。瀬戸内市役所の研修だけでなく、このワークショップをするときに必ず強調するのが、KJ法の行い方、さらに言うとKJ法とは何かという点である。実は多くの人がKJ法は分類の手法と思っているようなのだが、開発者の文化人類学者川喜田二郎先生がいみじくも『発想法』（中公新書）と名付けたように、これは物事をじっくり考えること

で目には見えてはいないこと、その物事の本質とは何かを発想するための手法なのである。1枚のカード（アイディア）が語る内容は、考えれば考えるほど多様に解釈できるし、その過程の中でアイディアが出た時点とは異なる意味が発見（発想）できたりもする。例えば、「給料が高い市役所」というカードがあったとしよう。これは、直接的には「福利厚生」、「やる気の醸成」、「人材確保」といったグループに入れることができるが、高額な給料を出すことで話題を呼び全国の人に瀬戸内市を知ってもらうという「市の広報」にも分けることができる。

研修では時間制約から1枚のカードを多角的に検討することは難しいのだが、参加者たちは精一杯その方向で取り組んでくれた。そして最後に、各グループは出したアイディアを整理分類した成果を報告し合った。

今回の研修は予想以上に皆が積極的で、無事に終わることができた。学生たちも最初は戸惑いながらも自ら発言、意見を述べたりと、非常に良い経験となったようである。今後も依頼があれば、学生と参加していくつもりである。



中国四国農政局「倉敷市下津井地区農泊モニターツアー」

産学官連携センター

本学は、中国四国農政局主催、JTB 岡山支店実施の「農泊モニターツアー」に中国と韓国からの留学生4名を派遣した。本ツアーは、農林水産省との連携協定に基づく農泊事業の一環として、10月11日（金）から12日（土）までの1泊2日で倉敷市下津井地区にて実施された。

ツアーに先立ち、9月18日（水）に事前視察が行われ、産学官連携センター長の三好宏教授と西谷諭職員が現地を訪問した。視察では、下津井シービレッジプロジェクトの牧信男氏が、下津井の過去の繁栄と現在の人口減少に触れながら、「補助金に頼るのではなく、地元の力で成長するために、学生たちのアイデアを活かしたい」と述べた。また、地域おこし協力隊の中臣さくら氏は、下津井節を後世に残すために「下津井宵灯り」というイベントを今年から開始し、持続可能な形にするための意見を求めた。

10月5日（土）には、10月11日からのツアーに向けた事前視察として、「下津井宵灯り」に参加する学生とともに訪問した。このイベントでは、下津井の街並みを踊りながら巡り、下津井回船問屋広場で輪踊りを行い、来場者とともに下津井節を楽しむ内容となっていた。

ツアーは、しもついでシービレッジでの事業説明から始まり、下津井横丁・吉又商店での魚捌き体験、昼食を挟んで

の歴史ガイドツアー、下津井節踊りの鑑賞、六口島への船旅と象岩の見学など、多彩なプログラムが実施された。ツアー開始時、牧氏は「下津井の未来を考える上で、留学生の皆さんの新しい視点を取り入れたい」と述べ、新たなイベントや閉校する小学校の土地利用について意見を求めた。

ツアーの最後に行われた意見交換会では、外国人観光客の視点から「食事が海産物中心なので選択肢がほしい」「街並みが美しいため、和装のレンタルやフォトスポットがあると良い」「旅行で訪れても購入できる店舗が少ない。児島が近いのでデニム関連の店があると良い」「ツアーガイドの説明は簡潔にし、多言語化してほしい」「ご当地マスコットキャラクターがあれば話題性が出るのでは」といった意見が出された。

ツアー終了後、三好センター長は「これまで農泊に関わり、様々な地域を見てきたが、下津井はまだ素材の段階にある。今後は『繋がり』をテーマに、『食』『場所』『人』を活かすことが重要だ。歴史や瀬戸大橋など、他にはない魅力を持つこの地域の可能性は高い」と述べた。今後、留学生の意見を参考にしながら、地域資源を活かした新たな取り組みが期待される。



湯原温泉「露天風呂まつり」「はんざき祭り」のイベント協力

経営学部商学科 准教授 大石 貴之

真庭市の湯原温泉では、地域の伝承にまつわる様々な行事が実施されている。このうち本学では、6月26日に実施される「露天風呂の日」、8月8日に実施される「はんざき祭り」において、長年にわたって学生がスタッフとして関わっている。近年では、本学学生と地元の方々との交流も盛んになり、湯原温泉において必要不可欠な存在として認識されるようになった。このうち、6月の露天風呂の日には商学科の1年生4名が参加した。ここ数年は、地域における様々な活動へ参加する契機となるよう、1年生の参加を募っている。この行事は温泉の恵みに感謝する神事として実施され、学生は巫女役や従者役となって源泉の湧き出す薬師堂から砂湯（露天風呂）まで湯を運び、他の源泉と共に砂湯に湯を流し入れるという祭事を行った。前日には温泉街を散策して湯原温泉

の歴史や現状を知る機会を得た。一方、8月のはんざき祭りには法学科、経営学科、商学科の学生14名が参加した。メインは本祭に実施される山車の引き回しであるが、前夜祭に実施される出店の手伝いや、本祭後の片づけなど様々な場面で学生が協力した。また、西ゼミで企画・実施している番田芋のどら焼きを前夜祭と本祭で販売し、地元の方々から好評を得るとともに他地域の活動をPRする機会ともなった。さらに、本祭終了後には地元青年部の方々と交流する機会が設けられ、本学学生が地域の方々に受け入れられていることを実感した。湯原温泉に限らず、現在多くの地域では担い手不足による伝統文化の継承が困難な状況となっている。学生にはこれらの活動を通じて地域の文化を維持することの大切さを実感し、他の地域にも目を向ける契機となることを願う。



総社市インターンシップ

産学官連携センター

本学は2020年度に総社市と包括協定を締結し、その一環としてインターンシップ制度を実施している。今年度で5年目を迎え、公務員を目指す8名の学生が参加し、事前の希望に基づいて秘書室・危機管理室・文化スポーツ部・総合政策部・消防本部などの部署で実習を行った。7月24日(水)、総社市保健センターにてインターンシップ開講式が行われ、学生たちはそれぞれの配属先で市政の現場を学んだ。

実習を終えた11月20日(水)には、総社市総合福祉センターにて成果報告会が開催された。報告会では、三好産学官連携センター長が「総社市では毎年、インターンシップの受け入れだけでなく、開講式や成果報告会を大学ごとに開催している。その準備や調整の大変さを、学生の皆さんは短期間ながらも感じたことと思う。指導いただいた恩返しとして、受け取った学びを政



策提言に代えて精一杯お返しできるよう頑張っている」と述べた。

学生たちは「総社市1dayバスツアー」「ワクワク子ども食堂」「総社市防災ツアー」などの政策提言を発表した。参加した学生の一人である福島歩(法学科3年)は「普段は知ることのできない職務を体験し、消防職員の方々から様々な話を聞くことができた。特に2018年の豪雨被害を踏まえたダム計画は強く印象に残った」と振り返った。

最後に片岡市長より「これからの人生で多くの選択を迫られることになるが、その際に『愛』『情熱』『勇気』を持ち、誰を幸せにしたいかを考えながら、自分の信念を貫いてほしい」との言葉が贈られ、修了証が交付された。

総社市インターンシップに参加して

法学科 3年
岩野 美咲

8月20日から8月24日の5日間、総社市役所政策調整課、産業部観光プロジェクト課にて、インターンシップに参加させていただきました。

参加動機は、大学卒業後の進路を考えるにあたり、市役所の雰囲気や職員がどのような仕事をしているのか、また、どのように市民の方々と関わることができるのか興味があったからです。

インターンシップ初日は、政策調整課にて総社市役所付近を散策し、総社の名前の由来や歴史文化について触れました。その後、市役所に戻り政策提言の作り方について学びました。その際、行政は民間企業とは異なり、自分たちが第一線に立つのではなく、民間企業にどのようにアプローチするのかを考え、政策を作ることが重要であると学びました。また、他部署でインターンシップに参加していた他大学の学生とも意見を交換しながら政策を考えることができ、新たな発想を得るなど、非常に学びの多い時間となりました。

2日目から5日目は、産業部観光プロジェクト課にて、総社市の歴史や魅力などを学ぶ短期集中講座「総社観光大学」の運営補助、かつ受講生として参加させていただきました。初日の入学式では司会を務めさせていただきました。と

ても緊張しましたが、滅多にできることではない貴重な経験をさせていただきました。

総社観光大学では、主に古代吉備についての講義を受けたり、実際に古代食作りや味噌作りなどの体験講座を行ったりしました。講義が始まる前や昼食時には、受講生への資料配布や出欠確認など、会場の準備やお弁当の配膳を行いました。4日間の集合場所は全て異なっていたため、朝の出欠確認は非常に重要でした。その際の市役所の方々の対応は、とても迅速で丁寧でした。イベントの運営補助を通して、常に視野を広く持ち、トラブルにも迅速に対応することの重要性を学ぶことができました。

他にも、バスでの移動の際には、参加された総社市民の方々から【“市民の方目線”で】の総社市の良さや課題点を教えていただきました。この4日間を通して、総社市民の方々と多く交流することができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

今後の大学生活や就職活動、就職後においても、この5日間のインターンシップで得られた経験を活かし、より一層精進してまいります。

中国四国農政局インターンシップ

産学官連携センター

本学では、2018年1月に農林水産省中国四国農政局と農泊（農山漁村地域に宿泊し、滞在中に地域資源を活用した食事や体験等を楽しむ「農山漁村滞在型旅行」）に関する包括協定を締結しました。本協定には、インターンシップに関する取り決めが含まれており、2018年度以降、希望する学生を受け入れていただいております。

2024年度は、法学部法学科3年生の西尾心虎さんがインターンシップ生として中国四国農政局農村振興課・農村計画課で活動する機会を得ました。期間は8月19日から8月21日の3日間で、主に農泊の推進に関する業務に従事しました。

今回のインターンシップを通じて、西尾さんは

農山漁村地域が抱えるさまざまな課題に直面しました。特に、農泊を通じた地域振興の取り組みが地域ごとに異なり、その成功には地域の特性を活かす工夫が重要であることを実感したようです。また、課題解決のためには、従来の手法にとらわれず、新しい視点や知見を取り入れる必要性を感じたと語っています。

これらの気づきは、西尾さんにとって貴重な学びとなり、将来のキャリア形成にも良い影響を与えるものと期待されます。

以下に、西尾さんから寄せられた感想を紹介いたします。

「中国四国農政局インターンシップ」に参加して

法学部法学科 3年
西尾 心虎

国家公務員の仕事を肌で感じることでできる貴重な機会であると感じ、8月19日から21日の3日間、都市農村交流課にてインターンシップに参加させていただきました。

初日は農泊手帖といって農泊地域の魅力や特徴を掲載した手帖の作成など、事務作業を中心に体験し、2日目は、矢掛町にある観光地の現地視察と井原市のアグリ美星リゾートの協議会の方との意見交換会に同行させていただき、農泊地域の持つポテンシャルや今後に向けた課題などを知ることができました。3日目は農山漁村の活性化や所得向上に取り組んでいる事例を評価し表彰する、ディスカバー農山漁村の宝AWARDの採点についてのグループワークを通じて、職員の方々の仕事に対する姿勢を学ぶことができました。

国家公務員の方が働いておられる職場の雰囲気は厳格で、職員の方は黙々と業務をしておられるイメージを持っていました。しかし、このインターンシップを通して職員の方同士で随时コミュニケーションをとりながら業務を進めておられる場面を多く拝見しました。また明るくフレンドリーな職員の方が多く、私が想像していた公務員という仕事に対するイメージが大き

く変わりました。2日目に農泊の協議会の方との意見交換会に参加した際には、協議会の方の地域への思い、行動力、発想力に驚きました。こういった方への協力や支援が都市農村交流課の大きな役目の1つであるということもわかりました。

農林水産省では、生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を未来の子どもたちに継承していくことを使命として掲げておられます。この大きな使命をもって働く組織の一員に将来私も加わりたいという、新たな目標が自分自身の中に芽生えた有意義なインターンシップとなりました。



コノヒトカン 1000 缶プロジェクト

産学官連携センター

コノヒトカンとは、「世界一あったかい缶詰」をテーマに、(一社)コノヒトカンが取り組むプロジェクトです。まだ食べられるのに廃棄される食材を有効活用するため、事業者から食材を買い取り、岡山県内の料理店の料理長が開発したレシピをもとに、長期保存可能な缶詰を制作しています。

「コノヒトカン」には、肉缶と魚缶の2種類があり、一缶(160g)を炊きたてのご飯2合と混ぜるだけで、3~4人前の食事が完成します。この缶詰を通じて、フードロス削減と食の大切さを伝えるとともに、支援を必要とする子ども食堂や児童養護施設へ食事を届けることを目的としています。また、企業や個人から支援を募ることで、社会全体で貧困問題への関心を高め、人とのつながりを深めるきっかけを提供しています。

2022年からは、このコノヒトカンを活用し、高校生がフードロスや貧困問題に関心をもち、探求活動を通じてアクションを起こすことを目的とした「コノヒトカン

1000 缶プロジェクト」がスタートしました。第3回となる今回から対象を大学生にも広げ、本学からは2024年度に発足した産学官連携センターの地域貢献学生スタッフの有志5名と、商学科・三好ゼミチームの2チームがエントリーしました。全国から51チームが応募する中、本学の2チームは一次審査を突破し、24チームに選出。10月5日(土)に山陽新聞社「さん太ホール」で開催されたプレゼン大会に挑み、プレゼンテーションを行いました。惜しくも入賞は逃しましたが、社会問題への理解を深める貴重な経験となりました。

なお、コンテストのグランプリには、高校の部では岡山県立矢掛高校、大学の部では環太平洋大学が輝きました。

学生たちにとって、「コノヒトカン 1000 缶プロジェクト」への参加は、社会課題の解決に向けた学びを深めるとともに、地域とつながりながら貢献する貴重な機会となりました。今後もこの経験を活かし、さらなる社会貢献活動に取り組んでいくことが期待されます。



「コノヒトカン 1000 缶プロジェクト」に参加して

経営学部経営学科 2年
行本 理人

コノヒトカン 1000 缶プロジェクトは、フードロスと貧困問題の解決を目指し、「コノヒトカン」を活用した支援活動を広めるプロジェクトです。コノヒトカンは、岡山県の料理長監修のもと開発された缶詰で、食品ロスの食材を買い取り、それを活用して製作されています。企業や個人の支援・協賛を受けながら、子ども食堂や児童養護施設などに年2回程度提供され、食を通じた社会貢献を行っています。

この活動は、単に食料を提供するだけでなく、食の大切さや社会課題への意識を広げることも目的としています。特に「コノヒトカン 1000 缶プロジェクト」は、社会貢献を大人だけで完結させるのではなく、全国の大学生や高校生が主体的に関わるができるよう設計されており、コノヒトカンを活用した支援アイデアを考え、地域社会のために行動を起こすきっかけを提供しています。これにより、若い世代が社会問題を身近に感じ、主体的に取り組む機会を得られる点が特徴です。

また、この取り組みを通じて、子どもたちにも社会問題への関心を喚起し、単に「食べること」だけでなく、「食べ物を通して人とのつながりを大切にすること」の重要性を伝えています。心の貧困を防ぎ、誰もが気にかける温かい社会を築くことを目標としており、「世界一あったかい缶詰」として未来を担う子どもたちを応援するプロジェクトです。

私自身、今回「コノヒトカン 1000 缶プロジェクト」に参加したことで、岡山にこのような素晴らしい取り組み

があることを知りました。社会が少しでも温かくなることを願い、私たちの産学官学生チームでは、高齢者施設でコノヒトカンを活用した料理イベントを企画しました。具体的には、高齢者の方々と一緒におにぎりなどの簡単に作れる料理を調理し、そのレシピを自宅に持ち帰って家族と一緒に作ってもらうというアイデアです。高齢になると料理が難しくなる方もいますが、コノヒトカンを使うことで手軽に栄養価の高い食事を摂ることができます。また、料理を通じて家族や地域の人々とのつながりを深めることができる点も、この企画の魅力の一つです。

このように、コノヒトカン 1000 缶プロジェクトは、単なる食の支援にとどまらず、人々のつながりを強め、より豊かな社会を目指す取り組みです。私たちも、このプロジェクトを通じて社会に貢献できることを誇りに思いながら、今後も活動を広げていきたいと考えています。



フィールドスタディの取り組み

本学は、「地域と呼吸する大学」、つまり地域に関する知識を有する人材育成及び学生の現場力、地域力を高めることなど、実践教育活動を必要欠くべからざるものと考えています。こうした考えのもとで地域実践活動を学生参画型で行うことにより、本学の学生の実践教育、教員の教育・研究活動をより多くの方に知っていただき、地域のみなさまとのさらなる連携を実現してまいります。



1 番田芋プロジェクト:地域資源のブランディング (市場調査、商品開発、販売、プロモーション)

2023.4～現在

玉野市他

経営学科:2名、商学科:30名

- 地域資源を活用し、玉野市の観光課題解決を目指した新商品開発。
- ばんだ農園(農業)、玉野プリント(一次加工業)、なかや宗義(菓子製造業)、小倉産業(卸売業)、大江紙器(梱包資材製造業)ら関係者と打ち合わせ。
- 主にInstagramやイベントでプロモーション展開。
- 宇統耐のリブランディングのため、市場調査を行いラベルデザイン考案。
- 「第5回学生地域づくり・交流大賞」優秀賞受賞。

産学官連携センター、商学科 助教 西 春奈



2 教職フィールドスタディ「岡山県議会傍聴」

2024.3.16

岡山県議会 (岡山市北区内山下)

法学科、経済学科、経営学科及び商学科の教職課程:12名

- 県議会議場を見学したり、県議会を傍聴したりすることによる主権者教育の研究。

商学科 教授 吉田 信



3 第3回コノヒトカン1000缶プロジェクト

2024.4～10

岡山市内

三好ゼミチーム 商学科:5名

産学官チーム 法学科:1名、経済学科:2名、経営学科:2名

- (一社)コノヒトカンが主催する「コノヒトカン1000缶プロジェクト」は、大学生・高校生たちがフードロス・貧困問題に意識を向け、探求活動を通して自らがアクションを起こすきっかけ作りとなることを目指すコンテスト。商学科三好ゼミチームと産学官連携センター学生スタッフチームの2チームが一次審査を通過。

産学官連携センター

商学科 教授 三好 宏



4 研究演習2年(西ゼミ) × おかやまコープ × なかや宗義: クリスマスケーキの企画開発、販売

2024.4.18～12.26

おかやまコープ大福 (岡山市)

商学科:15名

- おかやまコープ(小売業)、なかや宗義(菓子製造業)とクリスマスケーキの共同開発。
- リーフレット作成、コープ大福店頭で販促活動。
- アレンジレシピ動画制作、ゼミInstagramでのプロモーション。

商学科 助教 西 春奈



5 1年教養演習(吉田ゼミ)フィールドスタディ「岡山後楽園の歴史と文化探訪」

2024.5.2

岡山後楽園 (岡山市北区後楽園)

商学科1年教養演習履修者:12名

- 世の中を知る社会を知るシリーズ「地元岡山の歴史と文化・経済の研究」

商学科 教授 吉田 信



6 教職フィールドスタディ「岡山東商業高校・倉敷商業高校定期戦」見学

2024.5.9

ジップアリーナ岡山 (岡山市北区いずみ町)

法学科、経済学科、経営学科及び商学科の教職課程:10名

- 講義「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」で高校の特別活動の視察研究。

商学科 教授 吉田 信



7 研究演習3年(西ゼミ) × おかやまコープ × なかや宗義: PBスイーツの企画開発

2024.5.9～7.31

本学

商学科:16名

- おかやまコープ再建50周年記念企画の一環で、地元菓子メーカーと学生がPB商品を共同開発。
- 開発した「コープ産直こめたまごとと生協牛乳のたまーじゅ」は24年8月からコープ店頭や宅配で販売中。
- 学生は製品仕様や価格、ネーミング、PRのアイデアを提案。

商学科 助教 西 春奈



8 番田芋プロジェクト:三井生協グルメフェス出店

2024.5.12、7.20、10.5、11.24、2025.1.26

三井生協和田店、田井店、本部店(玉野市内)

経営学科:1名、商学科:12名

- 番田芋プロジェクト(なかや宗義×岡山商科大学)として共同出店。

- 共同開発商品の販売と番田芋のPR。

- 消費者の需要情報や認知度調査。

産学官連携センター

商学科 助教 西 春奈



9 番田芋プロジェクト: 第27回たまの・港フェスティバル出店

2024.5.18、5.19

宇野港(玉野市)

商学科:6名

- 番田芋プロジェクト(なかや宗義×岡山商科大学)として共同出店。

- 共同開発商品の販売と番田芋のPR。

- 消費者の需要情報や認知度調査。

産学官連携センター、商学科 助教 西 春奈



10 研究演習2年(大石ゼミ)

2024.5.18(倉敷美観地区)、2024.6.29(蒜山高原)

倉敷美観地区(倉敷市)、蒜山高原(真庭市)

商学科:15名

- 岡山県内の観光地を対象として、聞き取り調査や観察調査を実施した。

商学科 准教授 大石 貴之



11 番田芋プロジェクト: サツマイモ苗植え

2024.5.25、5.26、6.8

ばんだ農園(玉野市番田)

商学科: 13名

- 生産者から指導を受けながら作付け。
- 既存製品改良や新製品開発のため、生産者へのヒアリング調査および現場の観察調査。
- プロモーション用の動画・写真の撮影。

産学官連携センター

商学科 助教 西 春奈

**12 岡山商科大学国際交流特別講義
—中国文化プログラム—**

2024.5.25~2024.7.19

岡山県立津山商業高校 (Zoom)

津山商業高校生徒

- 中国語を学ぶと共に、日本や中国の文化を比較しながら交流をする。交流事業中国文化体験(中国粽)等を行った。翌週からZoomを用いて中国文化講座を行った。

岡山商科大学孔子学院 学院長 黎 曉妮

副学院長(中国) 孟 海霞、副学院長(日本) 韓 雲冬

講師 朱 風

**13 ホテルのタペ in 北房 ワークショップ**

2024.6.8、6.15

真庭市北房

商学科: 6名

- ホテル観賞マナー向上を兼ねて、子供を対象としたランタン作りのワークショップを(株)トヨタレンタリース新岡山さんと協働で実施し、その利益金42,980円を地元のホテル保存会へ寄付した。

商学科 教授 三好 宏

**14 日ようび子ども大学
「キッズマネー教室」開催**

2024.6.9

岡山県生涯学習センター(大学コンソーシアム岡山主催)

商学科FPコース 2年生: 8名、1年生: 14名

- 大学コンソーシアム岡山主催の「日ようび子ども大学」にて「キッズマネー教室」を開催。児童766名が来場し、学生が主体となって小学生向け金融リテラシー教育を行った。

商学科 教授 海宝 賢一郎

15 湯原温泉のイベント協力 露天風呂の日

2024.6.25~6.26

真庭市(湯原温泉)

商学科: 4名

- 湯原町旅館協同組合からの依頼により、湯原温泉におけるイベント(露天風呂の日)に関する運営補助を行った。
- 露天風呂の日では学生が神事の巫女役として協力を果たし、露天風呂の清掃を行った。

商学科 准教授 大石 貴之

**16 ひなせかきカフェス**

2024.7.7

備前市日生五味の市

各学科: 14名

- 「ひなせは年中カキが楽しめるまち」をテーマに、日生初の冷凍ガキを用いた食のイベントを、(株)トヨタレンタリース新岡山の13名の方々とボランティアとしてサポートした。

商学科 教授 三好 宏、商学科 教授 吉田 信

経営学科 教授 門脇 一彦

**17 大学コンソーシアム岡山「エコナイト」**

2024.7.13

奉還町商店街

法学科: 2名、経済学科: 1名、経営学科: 2名

- コロナ禍も収束し、恒例の奉還町商店街で実施するエコナイトに、リサイクル品を活用した射的を出店し、教職員と学生たちが運営した。

商学科 教授 三好 宏

**18 番田芋プロジェクト:
牛窓オリーブガーデン出店**

2024.7.14

牛窓オリーブガーデン(瀬戸内市)

商学科: 6名

- 岡山商科大学番田芋プロジェクトとして出店。
- 共同開発商品の販売と番田芋のPR。
- 消費者の需要情報や認知度調査。

産学官連携センター、商学科 助教 西 春奈

**19 未来の港と海に想いをつなぐ
「漁師が先生!! SDGsを学ぶ」**

2024.7.21

玉野産業振興ビル(玉野市築港)

法学科: 1名、経営学科: 2名、商学科: 4名

- 小学生対象に地元(漁師の邦美丸さん)によるタイのさばき方、刺身の試食、そして海の勉強会のボランティア。

商学科 教授 吉田 信

**20 教職フィールドスタディ
「裁判所の見学及び裁判の傍聴」の研究**

2024.7.21、2025.1.16

岡山地方裁判所(岡山市北区南方)

7/21 法学科、経済学科、経営学科及び商学科の教職課程: 15名
1/16 商学科1年教養演習履修者及びローターアクトクラブ: 19名

- 裁判所の仕組みや役割、空き法廷見学、裁判の傍聴等を行い研究を深める。また、社会を知り世の中を知り自己の生き方を考える。

商学科 教授 吉田 信

**2024 年 4 月 ~ 8 月****21 総社市インターンシップ**

2024.8~9

総社市役所他

法学科: 4名、経営学科: 2名、商学科: 2名

- 総社市との包括協定に基づくインターンシップ。
- 学生が希望する部署に配属され、5日間、業務にあたる。経験したことに基づき、インターンシップ成果報告会で、市長等へ政策提言を行う。

産学官連携センター

**22 教職フィールドスタディ
「第54回岡山県高等学校商業教育研究大会」**

2024.8.6

ビュアリティまきび(岡山市北区下石井)

経営学科及び商学科の教職課程「商業・情報」3年・4年生
免許履修者: 20名

- 岡山県下商業科の現職の先生方150名ほどが参加されている研修会。商業に関する講演会、研究発表、研究協議を行い、商業教育の推進を図る研究大会。

商学科 教授 吉田 信

**23 湯原温泉のイベント協力 はんざき祭り**

2024.8.6~8.9

真庭市(湯原温泉)

法学科: 2名、経営学科: 1名、商学科: 11名

- (一社)湯原観光協会からの依頼により、湯原温泉におけるイベント(はんざき祭り)に関する運営補助を行った。
- はんざき祭りでは、山車の引き回しや出店の運営、片付け等に協力した。

商学科 准教授 大石 貴之、商学科 助教 西 春奈

**24 番田芋プロジェクト:
湯原温泉はんざき祭り出店**

2024.8.7、8.8

真庭市(湯原温泉)

経営学科: 1名、商学科: 4名

- 番田芋プロジェクト(なかや宗義×岡山商科大学)として共同出店。
- 共同開発商品の販売と番田芋のPR。
- 消費者の需要情報や認知度調査。

産学官連携センター

商学科 助教 西 春奈

**25 番田芋プロジェクト: 関谷マルシェ出店**

2024.8.18、10.20

特別史跡旧関谷学校(備前市)

商学科: 5名

- 岡山商科大学番田芋プロジェクトとして出店。
- 共同開発商品の販売と番田芋のPR。
- 消費者の需要情報や認知度調査。

産学官連携センター、商学科 助教 西 春奈

26 中国四国農政局インターンシップ

2024.8.19～8.21

岡山市内

法学科：1名

●中四国農政局との包括協定に基づくインターンシップ。

産学官連携センター



27 観光・地域実習Ⅰ

2024.8.19～22

徳島県神山町

商学科：6名

●徳島県神山町における地域づくりの取り組みに関する調査を実施した。

商学科 准教授 大石 貴之

商学科 准教授 ソ コンゾン

商学科 准教授 杉本 敦



28 商大講座「発想法ワークショップ」

2024.8.28

瀬戸内市役所

各学科：5名

●2023年から継続する瀬戸内市役所入職5年目の職員を対象とした研修行事として、ブレインストーミングとKJ法を学生たちもグループに交じって実施した。

商学科 教授 三好 宏



29 観光・地域実習Ⅲ

2024.9.5～8

蒜山高原（真庭市）

経営学科：2名、商学科：4名

●蒜山高原における観光地の変容過程を調査した。

商学科 准教授 大石 貴之

商学科 准教授 杉本 敦



30 番田芋プロジェクト：第5回食&農マルシェ出店

2024.9.22

西川緑道公園（岡山市）

経営学科：1名、商学科：4名

●岡山商科大学番田芋プロジェクトとして出店。

●共同開発商品の販売と番田芋のPR。

●消費者の需要情報や認知度調査。

産学官連携センター

商学科 助教 西 春奈



31 研究演習3年（西ゼミ）：コープフェスタ2024出店、市場調査

2024.9.28

コンベックス岡山（岡山市）

商学科：10名（内、台湾短期留学生1名）

●おかやまコープ、なかや宗義と共同開発した「コープ産直こめたまご生協牛乳のたまーじゅ」を販売。

●需要予測に基づき、当日の販売数量・試食数量を決定。

●売り場レイアウトやPOPの作成。

●商品認知度、購買意向の調査。

商学科 助教 西 春奈



32 第3回コノヒトカン1000缶プロジェクトプレゼン大会

2024.10.5

さん太ホール（岡山市）

三好ゼミチーム 商学科：5名

産学官チーム 法学科：1名、経済学科：2名、経営学科：2名

●食材ロスとなっている食材で缶詰を作り、その活用方法のアイデアを競う高校・大学生向けコンテスト。三好ゼミと産学官学生スタッフの2チームが出場し、それぞれのアイデアを壇上で発表した。

産学官連携センター、商学科 教授 三好 宏



34 中四農政局「下津井留学生農泊モニターツアー」

2024.10.11～10.12

倉敷市下津井

経済学科：2名（中国留学生）、商学科：2名（韓国留学生）

●地元の地域活性化事業を行っている下津井シービレッジ（株）他の各観光への取り組みについて、留学生が参加・体験し、それぞれの国の目線で意見を述べた。

●このツアーの実施前には、9/18に現地で打ち合わせ、10/5の宵灯りイベントの視察も行っている。

商学科 教授 三好 宏



35 番田芋プロジェクト：奉還町アキナイト出店

2024.10.12

奉還町商店街（岡山市）

経営学科：1名、商学科：8名

●岡山青年会議所主催のイベントに、番田芋プロジェクト（なかや宗義×岡山商科大学）として出店。

●共同開発商品の販売と番田芋のPR。

●消費者の需要情報や認知度調査。

産学官連携センター

商学科 助教 西 春奈



38 真庭市社地区「社祭り」

2024.10.9

真庭市社地区

法学科：3名、経済学科：1名、経営学科：2名、商学科：2名

●真庭市社地区に平安時代から祀られているお社の5基のお神輿の内、担ぎ手不足により、1基しか担げない状況から、学生を派遣し神輿を担ぎ地域活性化の一端を担った。ただし、当日の午前中は大雨となり、担ぐのは形だけとなった。

商学科 教授 三好 宏





36 番田芋プロジェクト： サツマイモ収穫、選別

2024.10.13

ばんだ農園（玉野市番田）

商学科：7名

- 生産者から指導を受けながら収穫、選別作業。
- 「農業リノベーション」に向けた課題の抽出。
- プロモーション用の動画・写真の撮影。

産学官連携センター

商学科 助教 西 春奈



37 番田芋プロジェクト： ふれあいフェスティバル in 東児2024出店

2024.11.3

上山坂公園（玉野市）

商学科：8名

- 番田芋プロジェクトのPR（展示パネル、リーフレットの作成）。
- 共同開発商品の販売。
- 番田芋についてのアンケート調査。

産学官連携センター、商学科 助教 西 春奈



38 真庭市社地区 「竹灯ろう製作ワークショップ」

2024.11.4

真庭市社地区

経済学科：1名、商学科：1名

- 真庭市社地区にて大晦日に開催される「やしる竹あかり」で使用される竹灯ろうを地域の方々、（株）トヨタレンタリース新岡山の方と作成した。

商学科 教授 三好 宏



39 教職フィールドスタディ 「岡山県立岡山東商業高等学校 授業見学」

2024.11.5

岡山県立岡山東商業高等学校（岡山市中区東山）

経営学科及び商学科の教職課程「商業・情報」免許履修者3年・4年生：9名

- 来年度教育実習に参加する3年生の学生と4月から教壇に立つ4年生の学生による学校現場の授業研究。

商学科 教授 吉田 信



40 真鍋大島浜辺清掃活動

2024.11.9

笠岡市真鍋大島

商学科：2名

- 真鍋島公民館がみずしま財団による「河川ごみ等回収・発生抑制対策モデル地区推進事業」の補助を得て実施した近くにある大島の清掃活動に、学生たちが参加した。

商学科 教授 三好 宏



41 中国四国農政局 「香川県豊島観光PR動画撮影」

2024.11.11～11.12

香川県豊島

経済学科：1名、商学科：1名

- 本学と協定を結ぶ中国四国農政局が農泊地域の中から地域を選定し、2分のPR動画を撮影。撮影にあたってはJTB岡山支店からインバウンド向け動画に、という条件が出ていたため、留学生2名を派遣。

産学官連携センター



42 研究演習3年(西ゼミ)×おかやまコープ× なかや宗義：PBスイーツのプロモーション

2024.11.14

RSK（岡山市）

商学科：3名

- 代表者3名が、共同開発した「コープ産直こめたまごと生協牛乳のたまーじゅ」をテレビ番組でPR。
- 学生の振り返りをもとに台本を制作。

商学科 助教 西 春奈



43 教職フィールドスタディ 「岡山県立岡山東商業高等学校『東商デパート』視察」

2024.11.16

岡山ドーム（岡山市北区北長瀬）

経営学科及び商学科の教職課程「商業・情報」免許履修者2年生・3年生・4年生：25名

- 特別活動「学校行事」、「総合的な探求の時間」、商業科目「課題研究」等の視点から販売体験学習「東商デパート」の視察。

商学科 教授 吉田 信



44 研究演習2年（大石ゼミ）

2024.11.30、2024.12.21

牛窓（瀬戸内市）

商学科：15名

- 牛窓における観光資源について調査し、パンフレットや地図を作成した。

商学科 准教授 大石 貴之



45 番田芋プロジェクト： 岡山県 しいもの発見！たまのフェア出店

2025.1.10～1.13

天満屋岡山本店（岡山市）

経営学科：2名、商学科：8名

- 玉野市産業振興部商工観光課との共同事業。
- 番田芋および番田芋プロジェクトのPR（POP作成、ショップカード配布）。
- 共同開発商品の販売。

産学官連携センター

商学科 助教 西 春奈



46 京山地区ESD・SDGsフェスティバル

2025.1.25～1.26

岡山市立京山公民館

商学科：3名（番田芋プロジェクト）

- 岡山商科大学番田芋プロジェクトとして出店。
- 共同開発商品の販売と番田芋のPR。
- 消費者の需要情報調査。

産学官連携センター



47 ぶり市準備手伝い、ワークショップ、 模擬店出店

2025.2.1～2.2

真庭市北房地区

商学科：9名、経営学科：1名

- 恒例の歴史的行事であるぶり市を盛り上げるため、学生がその準備の手伝いと、番田芋プロジェクトの学生と三好ゼミ生が、どら焼き販売と子供を対象とした紙粘土でぶりをつくるワークショップを行った。

商学科 教授 三好 宏

商学科 助教 西 春奈



48 番田芋プロジェクト：北房ぶり市出店

2025.2.2

真庭市北房地区

商学科：9名、経営学科：1名

- 岡山商科大学番田芋プロジェクトとして出店。

- 共同開発商品の販売と番田芋のPR。
- 消費者の需要情報や認知度調査。

商学科 教授 三好 宏

商学科 助教 西 春奈



49 そうじや吉備路マラソンボランティア

2025.2.23

総社市内

法学科：3名、経営学科：1名、商学科：1名

- 総社市との包括協定に基づくボランティア。
- 学内公募で集まった5名の学生と総社市からの依頼で参加した。
- ゴール地点での誘導やタグの回収を行った。

産学官連携センター

50 番田芋プロジェクト： 第5回学生地域づくり・交流大賞 最終審査会

2025.3.7

AgVenture Lab（東京都千代田区）

商学科：5名

- （一社）全国農協観光協会主催のコンテストに参加。
- 代表者2名がこれまでの取り組みをプレゼンテーション。
- 優秀賞受賞。

産学官連携センター

商学科 助教 西 春奈



トヨタレンタリース新岡山と包括連携協定を締結しました

2024年4月18日（木）、岡山商科大学はトヨタレンタリース新岡山との間で包括連携協定を締結しました。

トヨタレンタリース新岡山は、スローガン「あたらしいほうへ！」に「地域社会やそこに暮らし、働く人、岡山を訪れた人たちとの新しい出会い、新しいつながりを創造していきたい」との思いを込められ、事業を展開されています。地域に直接貢献できる活動を検討されている中で、本学へお声がけをいただきました。

本学では地域から寄せられる様々な課題に対して、学生と教職員が現地へ赴き、地域の皆様のお話を伺いながら、地域に寄り添った活動を行う「フィールドスタディ事業」を展開しています。昨年11月、真庭市社地区で行った、竹の伐採からその活用を行うフィールドスタディに、同社の方にもご参加いただいたところ、学生・教職員とは異なったビジネスパーソンとしての視点で、持続可能な社会を作るための地域貢献活動のあり方や、人材育成のことを捉えられており、その姿勢に多くのことを学ばせていただくことができました。

フィールドスタディ事業で相互に協力することは、地域への貢献活動、持続可能なまちづくり、そして人材育成の観点からも、意義深いことから、



この度の協定調印となりました。

トヨタレンタリース新岡山本社で行われた調印式では、協定書への調印の後、末長一範社長から「フィールドスタディに参加することで学生から学ぶこと、そして学生へ伝えられることもあると思う。レンタカー事業を行う企業として新しいソリューションを提供し、さらなる挑戦へと繋げ、一人ひとりが成長する機会としたい」とのご挨拶がありました。

本学井尻昭夫学長から「本学では、教室での学びに加え、学外で実践を行う「内から外へ」という取り組みを推し進めている。トヨタレンタリース新岡山の「あたらしいほうへ！」は地域社会の活性化に向けたとても良いスローガンだと思う。明日の人材育成に一緒に取り組んでいけることをうれしく思う」と挨拶をしました。

明德義塾高等学校との「包括連携協定締結」について

2024年5月14日（火）、学校法人吉備学園は、学校法人明德義塾 明德義塾高等学校との間に、グローバルに活躍する人材育成やスポーツを通じた高大連携などを目指して、包括連携協定を締結しました。

当日は、明德義塾高等学校から、寄本校長、濱田教頭、吉田事務長、横山教諭（本学OB）、本学からは井尻学長、田中副学長、蒲教務部長、海宝入試部長、亀森事務局長が参加しました。

明德義塾高等学校は、これまで留学生を積極的に受け入れ、現在では約250名の留学生が在籍しています。これは国内の普通科高校では、もっとも多いとのこと。一方、本学はこれまでも留学生を多数受け入れてきたことから、留学生受入れにおけるグローバル化を進める点で一致しました。また、同校は、野球やゴルフ、剣道が代表的であるように、スポーツ分野にも力を入れています。なお、本学も、スポーツ分野を強化している



こともあり、同分野においても、相互交流ができればと期待しています。

今後は、留学生受入れによるグローバル化やスポーツ分野の交流による同校との高大連携を進めていきます。

本学は、これまで2007年岡山後楽館高等学校をかわきりに、本学附属高等学校（2008）、津山商業高等学校（2012）、和気閑谷高等学校（2019）、倉敷翠松高等学校（2022）、倉敷高等学校（2022）と包括協定を締結し、今回の締結で7校目となります。

公益社団法人岡山青年会議所との間に、包括連携協定を締結しました

本学は、「地域と呼吸する大学」をキャッチコピーに、地域社会に貢献できる人材の育成と地域貢献活動に取り組んでいます。岡山青年会議所は、「ひとづくり、まちづくり」をテーマに、長年にわたり青少年の育成に尽力しています。

これまでも本学は、岡山青年会議所が児童向けに行う職業体験イベント「キッズビジネスパーク」への協力や、企業の課題に対して学生の視点で解決を試みる事業「シゴトカレッジ」など、さまざまな事業で連携を行ってきました。こうした背景から、お互いに協力することで、それぞれの活動がさらに発展することが期待されることから、包括連携協定を締結することとなりました。

2024年8月9日（金）に行われた調印式では、井尻昭夫学長から「地域の発展と若者の育成という共通の目的がある。1 + 1 が 3、4、5 となる

岡山商科大学と公益社団法人岡山青年会議所との
包括連携協定締結式



ような取り組みを行いたい」との挨拶がありました。岡山青年会議所の大森将平理事長から「結束力をもって地域の発展に貢献していきたい」とのご挨拶がありました。

この協定の下で、高校生、大学生、留学生を対象としたワークショップや、商店街活性化のためのイベントなど、多岐にわたる取り組みを共に進めていく予定です。



大学コンソーシアム岡山・第10期会長校

本学は、2024年4月から「大学コンソーシアム岡山」の第10期会長校となりました（1期2年）。大学コンソーシアム岡山は、岡山県内の18大学と岡山県、（一社）岡山経済同友会を正会員として組織する団体で、岡山県内の高等教育機関が連携、相互協力することで、大学の知的資源を積極的に活用し、地域社会と産業界とも手を取り合うことで「時代に合った魅力ある高等教育の創造」と「活力ある人づくり・街づくりへの貢献」を目指して活動しています。

大学コンソーシアム岡山は2006年に設立され、本学は2010年に第3期会長校を務め、文部科学省のGP事業『岡山オルガノン』の構築にかかわる様々な事業展開を行い、2011年には東日本大震災へのボランティア派遣なども行いました。

会長校として、大学を取り巻く諸課題に対して、スピード感をもって対応するため、新たに「基本方針検討委員会」を設置しました。学生向けの単位互換事業や障がい学生支援、生涯学習講座、就職支援や地域貢献事業等について、他大学の学長や、各担当者の協力を得ながら、活性化に取り組んでいます。

（一社）岡山経済同友会から、若者に対して地元岡山の魅力を伝え、岡山で学び、岡山で活躍したくなるような社会環境の素地を作ることの重要性について提言をいただき、県内自治体に特別会員としての入会を依頼するなど、地元岡山の発展のため、取り組みを進めているところです。

〇日ようび子ども大学への参加

2024年6月9日（日）に岡山県生涯学習センターにおいて、「日ようび子ども大学」が開催されました。出展大学は、短期大学を含めて14大学でした。本学からは、例年に引き続き、「キッズマネー教室～おこづかいの使い方を考えてみよう！～」を出展し、22名の学生と海宝賢一郎教授がブースを構えました。参加者は子どもとその保護者合わせて63名となりました。保護者からは「お小遣いの金額をどの程度に設定するのが良いか」「とても良い勉強になった」など積極的に関心を寄せて参加いただき、学生にとっても、児童にわかりやすく教える難しさを学べたことなど、多くの成果があり

ました。会長校として職員2名がスタッフとしても協力し、全体で約1,700名の参加者が訪れる中、スムーズに運営することができました。



2024年6月6日に行われた学生向け事前説明会

〇エコナイトへの参加

大学コンソーシアム岡山加盟大学は毎年、「エコナイト」として環境問題への啓発活動を行う他、省エネ活動を実践するなどの取り組みを行っています。2024年11月15日（金）には、長年にわたり地球温暖化防止活動の推進に努めたことが評価され、岡山県備前県民局長から表彰されました。

2024年7月13日（土）に、岡山市奉還町商店街において、「エコナイト2024ー奉還町イベントー」が開催されました。加盟8大学と1短大がパフォーマンスとブース出展を行い、エコに関する啓発活動を行うもので、本学はリサイクル品、リユース品などを活用した射的を行いました。リユース品については、小売店のワゴンセール等から調達したほか、小物、雑貨、玩具、ぬいぐるみ等で、新品または綺麗な状態のものを大学内で提供するように依頼しました。学生5名が参加し、訪れた子たちに射的が上手にできるように手ほどきをしました。



大人気で長蛇の列ができる射的ブース

科学研究費助成事業への取り組み

科学研究費助成事業（科研費）は、研究活動に必要な資金を研究者に助成するしくみの一つです。人文学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、他の研究者による審査を経て、独創的・先駆的な研究に対して助成を行います。本学からも毎年多数の研究者が応募を行っており、2024年度は以下の研究課題で研究費の交付を受けています。

文部科学省から、研究活動のグローバル化に伴い、研究者に対して、外国政府や外国機関からの不当な干渉が行われることで、研究者の意図しない利益相反や技術流出等への懸念が顕在化していることに対して、研究の健全性・公正性（研究インテグリティ）を確保し、国際的に信頼性のある研究環境を構築する必要が求められています。本学では必要な規程を整備し、体制を整える等のリスク対応を行っています。

2024年度採択中の科研費		
研究種目・期間	研究課題	研究者（所属）
基盤研究（C） 2020～2024	EU農政下における家族制農業生産についての民族誌的研究	杉本 敦（研究代表者）（経営学部・准教授）
若手研究 2020～2024	日本における量的・質的金融緩和政策の実体経済に対する効果の検証	井尻 裕之（研究代表者）（経済学部・准教授）
若手研究 2020～2024	消費者の誘惑と自制心を考慮した年金制度に関する研究	熊代 和樹（研究代表者）（経済学部・准教授）
基盤研究（C） 2021～2024	ナッジを活用した高齢者の労働供給に関する研究	國光 類（研究代表者）（経済学部・准教授） 三谷 直紀（研究分担者）（経済学部・特任教授） 熊代 和樹（研究分担者）（経済学部・准教授） 佐々木 昭洋（研究分担者）（経済学部・准教授）
基盤研究（C） 2021～2024	新型コロナウイルス感染症拡大下における、独居高齢者の孤立化に関する実証的研究	栗屋 剛（研究分担者）（法学部・特任教授）
基盤研究（C） 2021～2024	デジタル社会に求められる職業会計士の役割・能力と今後の会計教育のあり方	吉良 友人（研究分担者）（経営学部・准教授）
若手研究 2021～2025	植民地期ベトナム南部の米輸出の展開と地域内消費—アジア米貿易の動向に注目して—	池田 昌弘（研究代表者）（経済学部・准教授）
基盤研究（C） 2022～2025	「現代における診療拒否の諸相」の解明を通じた医療提供及び患者支援に関する研究	栗屋 剛（研究分担者）（法学部・特任教授）
基盤研究（C） 2022～2025	日本のマクロ経済の長期停滞とゼロ金利政策に関するDSGEモデルによる包括的な分析	星野 聡志（研究分担者）（経済学部・准教授）
基盤研究（B） 2022～2025	電磁気現象の集束及び増幅に着目した渦電流探傷システムの開発	箕輪 弘嗣（研究分担者）（経営学部・准教授）
基盤研究（B） 2022～2025	LGBTQ当事者の家族形成実現とライフプラン教育の社会実装への相互深化モデル形成	栗屋 剛（研究分担者）（法学部・特任教授）
基盤研究（C） 2024～2026	感染症流行時等、患者・家族への医療者・介護者のあるべき接遇の倫理的法的社会的な研究	村岡 潔（研究代表者）（法学部・客員教授） 福永 憲子（研究分担者）（法学部・研究員）
基盤研究（C） 2024～2026	「観光による地域活性化」にむけた顧客志向の受容プロセスの解明	三好 宏（研究分担者）（経営学部・教授） 大石 貴之（研究分担者）（経営学部・准教授）
基盤研究（B） 2024～2027	無縁社会における高齢者法とその教授法の確立・輸出	鬼頭 祐紀（研究分担者）（法学部・准教授）

外部資金の獲得実績について

i. 公募、審査、採択の過程を経て獲得する競争的研究資金等

・2024年度 科学研究時助成事業 採択件数 10件 3,540千円

ii. 受託事業や共同研究に伴う研究経費等

・2024年度 共同研究 総社市1件 200千円
(総務企画課・産学官連携センター)

令和 6 (2024) 年度 私立大学等改革総合支援事業

副学長 田中 康秀

私立大学等改革総合支援事業は、『Society 5.0』の実現に向けた特色ある教育研究の推進や高度研究を実現する体制・環境の構築、地域社会への貢献、社会課題を解決する研究開発・社会実装の推進などにおいて、全学的・組織的に改革に取り組む大学等を重点的に支援するものであり、平成 25 (2013) 年度から始まった事業です。本学は、その開始以降今日まで継続して本事業への申請を行って採択されてきており、令和 6 (2024) 年度も申請を行いました。

令和 6 (2024) 年度の申請に当たっては、将来構想検討委員会で学長のリーダーシップの下に申請書の作成を進めました。特にタイプ 1 (『Society 5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開) については、未来を支える人材育成のための新たな時代を生きる学生に対する教育機能の強化を促進することが求められ、教育の質向上、高大接続、データ活用による教育展開とデータ活用人材の育成、多様な教育体制と社会との連携などについての 4 大項目について 1 年間の実績が問われました。これらはいずれも本学の教育の根幹に関する事柄であることから、副学長をヘッドに各学部・学科や学内組織での実績を精査しながら対応しました。その結果、問われている諸項目のうち未実施の項目はわずかとなっており、本学における教育の特徴を生かしながら教育の質保証に努めています。タイプ 1 は、これまで 11 年間連続して採択されています。

タイプ 2 (特色ある高度な研究の展開) は、特色ある研究の高度化・強化に向けた大学等の機能強化を促進することが求められ、研究基盤・研究支援体制、連携等による体制整備・研究実施、研究成果等といった研究体制への本学の取り組みについて問われています。研究基盤や支援体制については、本学は、令和 3 (2021) 年度から外国人教員の採用に任期制を導入し、同年度に准教授以下の教員採用における任期制も導入するとともにテニュアトラック制も導入しました。また、RA 経費のルール化やポストドクに対する支援制度も令和 4 (2022) 年度から導入しました。しかしながら、特に、研究における他大学等との連携に関わる項目にはまだ未実施のものがあり、教員の博士の学位を有する比率の向上や査読付き論文の実績のある専任教員の割合を一層高める等、更に改善すべき点が残されています。そこで、各教員の研究テーマや実施状況を把握し、研究がよりスムーズに進むような体制づくりを行うため、令和 5 (2023) 年度から学長のリーダーシップの下、各教員から研究に関する年間計画を提出してもらうこととしました。加えて、今後、研究に関わる他大学等との協定締結による共同研究実施の可能性も探っていく必要があります。いうまでもなく、研究の進展は教育の質と密接に関わっており、教育内容を向上させるためにも研究分野での体制整備が必要と考えています。

タイプ 3 (地域社会の発展への貢献) は地域の経済・社

会、産業、文化等の発展に寄与する取り組みを支援するものであり、これは「地域連携型」(単独校の取り組み)と「プラットフォーム型」(グループによる取り組み)の 2 つが令和 6 (2024) 年度も用意されていますが、本学はこれまで通り、令和 6 (2024) 年度においても「地域連携型」に申請を行いました。地域連携は本学の教育・研究における重要な柱の 1 つであり、県内 10 市町村との包括連携協定を締結するなど、連携体制の整備と連携内容の更なる強化に努めています。学外との連携活動は、時代の変化に対応して行われると考えていることから、それぞれの時代に合った連携体制・連携内容を本学の産学官連携センターを中心に今後も進めていく必要があります。一方、タイプ 3 のもう 1 つの支援形態である「プラットフォーム型」(グループによる取り組み)については、複数の大学等との連携が必須要件であり、現時点では申請することができませんが、今後、本学の強みを生かした連携方法等を模索していく必要があります。

タイプ 4 (社会実装の推進) は、産業界と連携した社会実装の推進に向けた取り組みを支援するものであり、産業界との共同研究や受託研究の受け入れ、及びそれらの実施体制の整備、更には、それらの成果としての知的財産・技術の実用化など知の好循環などに関わる項目の実施が求められています。本学は、社会貢献として地域との連携活動を行っていますが、しかしながら、社会科学系の大学であるため、知的財産等に関わる産学連携による共同研究や受託研究はほとんどないことから、それらによる研究費の獲得や寄付受入れにも自ずと制約があることから、本タイプの各項目の設問においてポイントを獲得することが困難な状況にあります。今後も厳しい状況が続くと考えています。

(追記)

令和 7 (2025) 年 2 月 12 日文部科学省から令和 6 (2024) 年度私立大学等改革総合支援事業の選定結果が公表されました。その結果、本学については、昨年に続いてタイプ 1 が採択となりました。これにより、本学のタイプ 1 の採択は 12 年間連続となり、これまでの本学における教育の改善に向けた不断的な努力が評価されたことは喜ばしいことであり、今後も更なる努力を重ねて、次年度以降も採択されるよう努めたいと思っています。一方、タイプ 3 (地域連携型) は昨年度に引き続き不採択となりました。本学は、令和 6 (2024) 年度のタイプ 3 (地域連携型) についても昨年度から更に改善を重ねて申請しましたが、しかしながら、私立大学等改革総合支援事業に応募する大学の数が年々増加しており、その結果、タイプ 3 (地域連携型) の選定ラインが昨年度よりさらに上昇したこともあり、残念な結果になりました。本学は毎年このタイプに対しても改善努力を行ってきたのですが、このタイプが採択される可能性がますます厳しくなっています。

大学祭改革 ～新しい大学祭の姿を追って～

学生部長 経営学部商学科 教授 吉田 信

今年の大学祭「第59回商大祭」は、「輝～Chemistryで繋がるNew story～」のテーマのもと模擬店出展数昨年度比150%増、一般来場者数110%増、本学学生参加者数105%増、加えてステージ発表、展示数も昨年を上回りとても楽しく盛り上がった大学祭になりました。ご来場いただいた皆様方、ありがとうございました。

最近の大学生は興味関心が多様化しています。大学祭といえば、かつてはアーティストライブやトークショーなどでは有名人を呼ぶのがあたりまえでした。しかし、最近はスマホの普及やコンサートに気軽に行けるようになったことなどもあり、大学祭でのアーティストライブやトークショーに関心を示さない学生が多くなってきました。そこで今回、大学祭実行本部の学生の皆さんが新しい大学祭の姿を追って挑戦した姿をご紹介します。

今年の大学祭は思い切ってアーティストライブやトークショーを実施せず、地域との連携や日頃の教育研究の成果発表を、本学学生の皆さんや地域の皆様に見ていただくという企画にしました。

オープニングでは学長、学部長の先生方全員がコスプレを着ての幕開けで、最初から大盛り上がりでした。地域との連携では、防災を呼びかける岡山市消防局の地震体験車や消防車の試乗展示、非常食の試食及び配布、ハザードマップの紹介や配布、自衛隊の災害救助活動車両の試乗やパネル展示、岡山市消防音楽隊の演奏と火災に関する呼びかけ、津島小学校吹奏音楽隊による演奏、京山公民館から太極拳講座の模範演技、関西詩吟の披露など、とても楽しい雰囲気でした。

高校連携では、岡山南高校書道部と商大附属高校書道部による書道パフォーマンス。岡山東商業高校、倉敷高校、倉敷翠松高校、商大附属高校の「高校生の店」。西大寺高校からバンド演奏などがあり大変盛り上がりしました。

また、日頃の研究活動の発表では、法学部の模擬裁判、経済学部のプレゼン大会・就活イベント、経営学部経営学科の学科紹介、商学科のキッズマネー教室、フィールドスタディの紹介や開発商品の販売など、各学部各学科の特徴を出したものになりました。その他、ボランティア活動から広がっ

た犬猫愛護会わんぱーくの犬猫譲渡会、3丁目ユースクリニックによる「どんなことでも話を聞きましょう!!」など多岐にわたる取り組みになっていました。さらに今年は大学のマスコットキャラクターを作成し、商大祭を盛り上げていました。このように今回の大学祭は、芸能人によるアーティストライブやトークショーを行わなくても大学祭が立派に成功することを証明してくれた大学祭になりました。

学生の皆さんはすでに来年度に向けて動き始めており、学生同士の交流・人間関係の広がり、地域とのコミュニティの場、学生の自主性と創造性の発揮の場、学問と文化の発表の場などの視点+楽しさ+爆笑などの取り組みを考えていただいているようです。高校生の皆様をはじめ地域の皆様、是非来年度の商大祭にも足を運んでいただき、楽しんでいただけたらと思います。ご来場をお待ちしております。



コスプレを着てのオープニング



岡山南高校による書道パフォーマンス

「真庭型産業人材育成プログラム」の活動と成果

岡山県立真庭高等学校 校長 竹内 成長 教諭 杉本 祥汰

1. はじめに

本校は大正13年に創設された落合町他四箇村組合立落合実科高等女学校を源流に持つ落合高校と、昭和21年に創設された久世農林学院に源流を持つ久世高校とが、統合してできた学校である。令和4年度入学生から2校地を統合し、落合校地に経営ビジネス科と食農生産科を設置し、従来からあった看護科とともに三科体制をスタートさせている。経営ビジネス科は、商業に関する学びの中で、地域連携活動や地域資源を活かした実践的な学習を行うことで、地域社会の持続的な発展に貢献できる人材を育成することを目標としている。学習内容ではマーケティング分野・ビジネス情報分野を重点的に学び、「商品開発と流通」や「マーケティング」、「観光ビジネス」等の科目における地元企業との連携を通じて、実践的な課題解決能力を身に付けることを目指している。

2. マイスター・ハイスクール事業

令和3年度から令和5年度までの3年間、文部科学省事業であるマイスター・ハイスクール事業の研究指定によって食農生産科と経営ビジネス科全体を通してのビジョンを定め、「真庭型産業人材育成プログラム」をテーマに実践研究を行った。育てたい人材像として、「自然と共生し、持続可能な地域と地域産業を担う人材の育成」を掲げて地域に受け継がれてきた自然や産業を活かして学ぶ中で、他者とともに課題の発見や解決に取り組むことのできる力を育み、自らの生き方と産業の未来を重ねて考えチャレンジする人材を育成することを定めた。地域と連携した授業展開を重視し、地域によるガイダンスや聞き書きによって「真庭を学ぶ」活動を行い、現地での視察や実習、企業施設の利用やフィールドワークによって「真庭で学ぶ」活動を行い、真庭の特色であるCLTやバイオマス発電、バイオ液肥、SDGsの取組などによって「真庭に学ぶ」活動を行う。これらの地域を学びに取り入れるインプット学習と地域のイベント参加や交流・体験などによって「地域と共に学ぶ」活動やビジネスプランの提案や普及活動によって「学んだことを地域へ活かす」活動などのアウトプット学習を循環させることで目指す人材育成ができると考えた。

3. 経営ビジネス科第1期生の探究活動

1年次の令和4年度では、「ビジネスを知る」ことに重点を置き、真庭市の地域特性や地域資源を活かした生業を生み出している人を知ること、真庭地域への興味関心を喚起するとともに、観光資源や地元特産物をビジネスに繋ぐ手法を学び、「マーケティング」や「観光ビジネス」の学習の基礎とすることを目的として、真庭市の北部と南部の2回に分けて「真庭ビジネス探究ツアー」を実施した。また、製造業、サービス業、小売業、卸売業、物流業、金融業、情報通信業について地域のビジネスを取り巻く環境や流通と流通を支える活動の展開について学ぶことを目的に、地域の企業8社に講義をしていただいた。2月頃には「ビジネス探究活動」として、探究的な活動を通じてビジネスプランの作成をスタートさせた。



2年次の令和5年度では、「ビジネスを実践する」ことに重点を置いた授業展開を行った。「マーケティング」では、1年次から開始した探究学習についてビジネスプランとしてまとめ、「岡山イノベーションコンテスト」にクラス全員が7チームに分かれて応募した。書類審査ではこのうち2チームのプランが通過し、二次審査に出場した。また、課外の取組として真庭市主催の「Cultivate the future maniwa 2023」ヘイインターンシップとして2名の生徒が参加した。この事業は真庭市産業政策課が主催する、都市部企業と真庭市内の企業をマッチングさせ、アイデア創出から新規事業の立ち上げを実施する取組である。

■ 新たな価値の創造に向けて



4. 令和6年度の探究活動

3年次の令和6年度では、「ビジネスを探究する」ことに重点を置いた授業展開を行った。「課題研究」のビジネスプラン探究講座は1年次、2年次と研究してきたビジネスプランについて事業化に向けた実践を目指して、竹害防止に向けた竹の活用に関する研究を進めている。2年次では竹の活用方法や竹パウダーを製造・販売する際のビジネスモデルを考えたが、実証実験による効果の検証ができていなかったため、3年次で効果の検証をするために実証実験を行ってきた。

(1) 防草効果実験

竹パウダーを活用した防草効果実験として、真庭高校のテニスコートに試験場を作った。実験結果は竹パウダーも木パウダーもマルチング効果により一定の防草効果があることがわかった。しかし、木パウダーは雨や風によって流れていったため、流れた部分には雑草が生えてきた。5か月経過した10月上旬になっても、竹パウダーの区画にはほとんど草が生えておらず、そのまま冬を迎えた。

(2) 消臭効果実験

真庭市では、生ごみや、し尿を利用したメタン発酵によるバイオガス利用と、バイオ液肥を利用したモデル実証に取り組んでいる。市全域で行われる生ごみ回収の際に竹パウダーを振りかけることによって異臭を防止することができると考え、2週間程度、真庭市内の18世帯にご協力をいただき実験した。協力いただいた住民の方から、一定の消臭効果は感

じた、生ごみが隠れてよい、今後も竹パウダーを使いたい、など肯定的な意見を多くいただいた。



(3) 竹パウダーのメタン発酵効果の検証

真庭市の生ごみ循環事業に協力をされている京都大学の土井先生に竹パウダーのメタン発酵について検証していただいた。竹パウダーが分解されるとバイオガスが発生することがわかった。よって、竹パウダーを生ごみに振りかけ、バイオ液肥にすることで通常生ごみだけでなく、バイオガスの収量が増加することが明らかとなった。

(4) コンテストへの挑戦

実験結果からビジネスプランをブラッシュアップし、様々なコンテストへ挑戦した。生徒商業研究発表大会では実験途中であったため、満足のいくプランを作成することができなかった。その後、地域の方々にプランを発表し、意見をいただきながらさらにプランをブラッシュアップした。10月に行われた「第34回全国産業教育フェア栃木大会 全国高校生ビジネスアイデアコンテスト」では最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞した。さらに、「岡山ガスオープンイノベーションプロジェクト 2024 ビジネスプランコンテスト」では学生部門(高校生の部) 大賞・グランプリを受賞した。また、コンテスト以外にも「真庭あぐりガーデン SDGsDAY」や「高校生夢育 PBL フォーラム 2024」、「真庭 SDGs 円卓会議」など多くの場で発表する機会をいただいている。



校内プレ発表



全国高校生ビジネスアイデアコンテスト



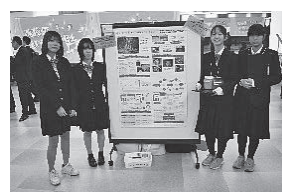
岡山ガスビジネスプランコンテスト



岡山イノベーションコンテスト 2024



真庭あぐりガーデン SDGsDAY



高校生夢育 PBL フォーラム

(5) 研究の継続

12月に地域の方々と会議を開き、竹パウダーの販売に向けた活動を進めている。販売に向けた検討事項として、竹の伐採を誰が担うのか、山からどのようにして運び出すのかという点が課題として残っている。次年度では、食農生産科と経営ビジネス科の合同チームで研究し、生育実験や商品としての完成と販売を目指している。

5. おわりに

経営ビジネス科は「真庭型産業人材育成プログラム」に従って様々な探究活動を行い、初めての卒業生を輩出する。第1期生の進路先は四年制大学7名、専門学校8名、一般就職10名、公務員1名となった。生徒たちは、探究活動を通して地域から多くのことを学ぶことができた。将来は地域を担う人材として活躍することを期待する。真庭高校ではこれからも岡山商科大学の先生方からアドバイスをいただきながら探究活動を進め、深めていきたい。

PBL から新たな挑戦 ～さんフェア栃木から学んだこと～

岡山県立津山商業高等学校 校長 砂田 祐一

教諭 芳原 晨祐 講師 行成 太希

I 本校の紹介

本校は、令和3年(2021年)に創立100周年を迎えた伝統のある学校である。卒業生は、22,000人を超え、地元はもとより、全国各地で産業界のリーダーとして活躍している。

在校生も校是「自彊」の精神を深く理解し、実践することで知・徳・体の調和のとれた成長をめざしている。百周年記念事業として整備されたフューチャールームは、4面マルチスクリーン、全壁面ホワイトボードを備え、「レクチャー」だけでなく、「協働学習」や「課題解決型学習」といった多様な

教育活動を実現できる学習空間となっている。このような環境の中で、生徒は仲間と協働しながら、コミュニケーションを図り、主体的に考え、自分の意見を発表する力を育んでいる。

II 『つしょうがみそ』グループの取り組み

このグループは、3年次に本校の授業である課題研究受講者を中心にメンバーが構成されている。昨年度の3年生がうどんワッフル・通称『つしょうふる』の商品企画を行った繋がりから、今年度も津山市にある就労継続支援B型事業所ら

くがき様（以下「らくがき」）に協力をお願いした。そこで、規格外の津山産生姜を活用した『らくがきの生姜味噌』に焦点を置き、食品ロスと障がい者雇用の2つの社会問題を解決するために、新たに津山商業高校がネーミングやラベルの考案を行い、販売経路の確保や商品販売を実施した。

ネーミングについては、津山商業高校と生姜味噌を掛け合わせ『つしょうがみそ』という商品名にした。ラベル作成については、顧客のターゲットを絞っていく中で、旅行観光客や地元の方への認知度を目的として、最初に作成したラベルを一新し、現在のラベルに至っている。商品をプロデュースしていく中で、生徒が自ら日々の授業と連動しながら、CM作成やHP作成を行い、より高度なビジネスの視点を活かした取り組みを行うことができた。HPのQRコードを作成し、商品の蓋に貼り付けすることで多くの人に閲覧してもらうように工夫した。

流通業者を選定していく中で、常設販売を行うことを目標に業者選定を行った。そして、卸売業者である株式会社タナベに卸売りの依頼をした。結果として、道の駅久米の里に常設販売することができ4か月で約400個の商品を売り上げることができた。

また、メンバーによる直接販売も行った。その中でも学校行事である「津商モール」では、1日で400個の商品を売り上げることができた。



初代ラベル



2代目ラベル



『つしょうがみそ』グループ全体写真



2024年7月22日道の駅久米の里常設販売開始

Ⅲ 第34回全国産業教育フェアについて

これまでの活動をまとめ栃木県で開催された、「全国産業

教育フェア栃木大会さんフェア栃木 2024」に全国44チームの予選を突破し決勝へと出場することができた。決勝8チーム中全国第2位となる優秀賞を受賞しこの結果は生徒たちにとって大きな自信になった。

『つしょうがみそ』での取り組みを中心に7分以内に整理して発表することが求められた。準備の際には活動に協力してくださった「らくがき」様や地元大学食物学科様にもご指導をいただきより内容を深めていった。大会前日の会場でのリハーサルでは生徒自身が足りないと感じた部分を自分たちで見つけ出し、臨機応変に対応し当日を迎えた。全国大会という舞台でこれまでの活動で培った問題発見力、問題解決力、自ら学びに向かう様子を表現できた。

生徒たちは、他校との交流を通じて、自らの取り組みを発表する機会を得ることができ、より一層の成長を遂げた。岡山を飛び出し、全国レベルに実際に触れることで「ホンモノの学び」を身近に強く感じる事ができた。生徒たちにとって大きな刺激となり、次のステップへの意欲を高める結果となった。

全国大会での成果は、単に受賞したことに留まらず、生徒たちが丸となって目標に向かって努力し、学びを深める過程そのものが生徒たちの成長を促す重要な経験となった。このような機会を通じて、商業教育の奥深さや、地域貢献の大切さを再確認することができた。

Ⅳ おわりに

生徒は、座学だけでなく、体験を行うことで学びの深化が進んでいる。活動の中で、困難に遭遇しながらそれらを乗り越えるために考察し、行動したことが今回の結果に繋がっている。昨年度から協力してくださっている多くの企業の方や関係者の方には、ご迷惑をおかけしながら取り組みを続けてきた。これもひとえに生徒の成長を我慢強く見守って下さった皆様のおかげであると感謝している。これからの商業教育の発展のためにこれからも多くのコンテストや地域での活動に尽力していきたい。



さんフェア栃木発表メンバー写真

中学校社会、高校商業の教員採用試験合格

経営学部商学科 教職課程担当 教授 吉田 信

本学には中学校「社会」と高校「公民」、高校「商業」、高校「情報」の先生を目指して日々頑張っている学生の皆さんがいます。教職課程専用の「教職学習室」では、自主勉強できる環境を整えており教員採用試験関係の資料や中学校、高校の教科書等も取り揃えているため講義の空き時間等でよく利用されています。

また、本学「商大塾」の講座の一つとして「教員採用試験対策講座」を実施しています。前期、後期ごとに中学社会講座と高校商業講座が実施されています。今回は、高校商業対策講座のご紹介をします。

高校商業の場合、市販の過去問題集が発行されていないこともあり、過去問題を各県の教育委員会から取り寄せて揃えています。勉強の進め方は、一例として毎回どこかの県の過去問題をテストし、自己採点、そして高校で使用している教科書で確認しながら解説づくりをします。各学生が作成した解説を1冊にまとめて配布し、講座では学生同士で質疑応答を行います。どの県も1回の試験で

教科書10冊前後から出題されており、どの教科書のどこに載っている内容から出題されたのか、常に確認をしながら進めています。

このような地道な努力の積み重ねで、高校商業では神戸市立学校2次試験合格、徳島県、島根県1次試験合格、岡山県中学社会で2次試験合格、岡山市の大学3年生チャレンジ試験の一次筆記試験等に合格者が出ております。中学校社会や高校公民、高校商業、高校情報の先生を希望されている高校生の皆さん、ぜひ本学で教員免許を取り教壇に立って夢をかなえてください。



教員採用試験対策講座での学習の様子

「教職課程」について

私は、中学時代の恩師がきっかけで教師になりたいと思い、中学校社会科の教員免許を取得できる岡山商科大学経済学部に入學しました。

教師になるためには、卒業のために必要な単位の他に教職課程の単位を取る必要があると同時に、特別支援学校での実習や介護等体験、教育実習といった研修に加え、並行して教員採用試験に向けた勉強をしていかなければいけません。これらの事から精神的に苦しい場面も多くありました。しかし、私がここまで学習を続けることができたのは、南光恭裕先生をはじめとする教職課程の先生方のサポートや共に切磋琢磨してお互いを高め合った教職課程の仲間たちのおかげだと感じています。

私自身、教育実習を通じて教師としての力量や授業の引き出し、知識量などまだまだ足りない部分が多いと感じる場面がありますが、生徒と向き合う気持ちは誰にも負けない自信があります。そのため、教師としてどう在るべきかを常に考え、わかりやすく生徒が楽しみながら学べるように教材研究を充実させて足りない部分を補い、自分の

良さを伸ばしていきたいと考えています。

教育課程は大変ですが、やりがいがある上に自分自身と向き合い、深めるこ

とのできる良い機会になると思います。教育に興味のある人や人間として成長したい人は、教職課程を履修していただきたいと思います。

最後になりましたが、私は生徒にただ教科の知識や技能を教授するだけではなく、人としてどう在るべきかを生徒が自分自身で考えられるように指導できる教師、生徒の人格形成に多大な影響を及ぼすことを十分に理解し、「責任感」を持って接することのできる教師、生徒が卒業後にこの先生に指導してもらえて良かったと思えるような教師になりたいと考えているので、応援よろしく願います。



経済学部経済学科 4年

花谷 尚志

売り手市場が更に強まった 25 卒学生の就職活動

2025 年 3 月卒学生（以下、25 卒学生）の就職活動は、企業の採用活動の激化によって求人倍率（リクルートワークス研究所調査）は 1.75 倍と上昇し、学生優位の「売り手市場」が更に強まりました。このような状況の中、最も特徴的だったことが 3 つありました。

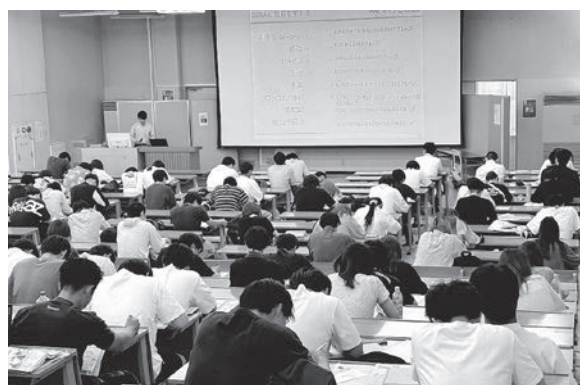
まず 1 つ目は、新型コロナウイルスが感染症法上の 5 類に移行したことで、インターンシップや会社説明会、面接などが対面で行われるようになったことです。これにより、学生は会社の雰囲気や直接肌で感じることができ、企業理解をより深めることができました。また、対面とオンラインの使い分けによって、選考を受けるチャンスが広がったのではないかと思います。

2 つ目は、インターンシップ等が企業の新卒採用プロセスに組み込まれることが一般的になったことです。25 卒学生からインターンシップの定義が改定され、一定の条件を満たせば、参加学生の情報を企業が選考に活用できるようになりました。就職情報会社の（株）学情の調査によると、インターンシップ等を実施して早期選考を行った企業は 64.0%、選考での優遇を含めると 8 割超にのぼったとのこと。その結果、企業の選考スケジュールが、①夏季インターンシップ等からの年内早期選考、②秋・冬季インターンシップ等からの年明け早期選考、③就職活動解禁からの本選考、という 3 つのパターンになりました。学生にとっては選考の機会が増えるというメリットがある一方、就職活動の早期化と長期化、各企業の採用スケジュールが見えづらいというデメリットがあったように思われます。

3 つ目は、就活エージェントを利用する学生が増えたことです。これは人材紹介会社のことで、就活生を求人企業に有料で紹介するというものです。就活ツールの 1 つではありますが、就活生と就活エージェントとの間で、希望していない業界・企業への斡旋、内定承諾の強要、オワハラ関与などのトラブルが幾つかの大学で

起こりました。そのため、本学としては学内で注意喚起を行い、信頼できる就活エージェントを利用するように指導しました。

これら 3 つの特徴は売り手市場という就職環境によって起こったものですが、この恵まれた環境であっても動き出しの遅い学生は一定数存在し、出遅れてしまうと他の就活生よりも当然不利になります。これらの学生に共通して言えるのが、人との繋がりが希薄であることです。就職活動では、企業やその採用担当者、他大学の就活生、OB・OG との出会いや繋がりがあり、これは社会人になっても会社という組織の中で誰かと関わりながら仕事をする上でとても大切なことです。そのために、日々の学生生活で関わる友人、同級生、先輩・後輩との繋がりを大切にしてほしいと思っています。本学キャリアセンターとしても、学生とキャリアセンター職員との繋がりを大切にしながら、就職サポートをしていきたいと考えています。



第 2 回就職ガイダンスの様子



学内合同インターンシップ&オープンカンパニー説明会の様子

合格者の声



新見市職員採用試験（地方公務員上級）

経営学部経営学科 4年
山下 聖七

私は、令和6年度新見市職員採用試験に合格しました。試験対策としては、岡山商科大学で行われる公務員講座を受講していました。

公務員講座では、全日程の時間割が決まっており、自身の勉強も計画的に進めることができました。また、公務員講座を受講することによって、確実に勉強時間が確保され、モチベーションの維持にも繋がりました。

公務員試験を受ける上で1番大切だと思ったのは、持続できる計画的な勉強だと実感しました。公務員講座を受講した直後は、やる気が先走り、無計画に様々な科目に手を付けていたため、意味のない時間を過ごしていました。その後、少しの勉強時間でも、各章ごとに勉強したり、日本史や世界史などの範囲が広く、出題数

が1、2問の科目は、高校の知識で勝負しました。知識のある科目や知識が乏しく、出題数の少ない科目の勉強時間は割くなど、計画的に効率の良い勉強をしたおかげで、理解度も記憶力も格段にアップしました。

本格的に勉強を始めたのは、試験の半年前からです。本番が近づくとつれ、勉強する頻度や時間は増えていきました。公務員講座の付属の模試や、自身で取り寄せた模試を全て解説できるまで繰り返したり、様々な模試に手を付けることにより、問題の傾向や、1問にかかる時間など、本番を想定した勉強もしました。

公務員試験は、企業の就職活動と比べ、長期戦になります。そのため、いきなり勉強を始めるのではなく、少しずつ勉強時間を増やして、無理をしないことも重要です。同じ目標の人と励まし合いながら、アルバイトや友達との遊びも大切に、勉強時間をうまく確保すれば、きっと上手くいきます。努力は裏切らないので、自分の将来のために、頑張っていきましょう。



島根労働局（国家公務員一般職合格）

法学部法学科 4年
T・S

私が厚生労働省を志望したきっかけは、ゼミで労働基準監督署を訪れた経験がきっかけです。労働行政の重要性を感じ、私も働く人の助けになる仕事に就きたいと思い、試験勉強を大学2年生のころから始めました。

筆記試験の勉強は大学が主催する公務員講座を活用しました。2年生のころから公務員講座を受講していましたが、2年生のころはバイトやサークルにも取り組みながら、その日に講座で学んだことを家で復習するなど、のんびり勉強をしていました。試験が近くなると毎日家で7～10時間ほど勉強をしていました。ただ時間をかけるのではなく、毎日参考書を何ページ読むといった風に具体的に目標を立てて取り組みました。2年生から勉強を始めていたおかげで、

3年生からインターンや民間企業の情報収集にも時間を使うことができたので良かったです。

面接対策はキャリアセンターとハローワークと公務員講座の講師と繰り返し模擬面接を行い、家ではchatGPTを活用して面接対策を行いました。対策を始めた時期は筆記試験終了の翌日からです。筆記試験でどれだけ良い点数をとっても面接で不合格になるということがありますので、筆記試験終了後すぐに、筆記試験合格発表前に面接対策を始めていて良かったです。

結果、厚生労働省と島根労働局から合格をいただくことが出来ました。

ここまで頑張ることができたのは一緒に勉強を頑張る仲間がいたからだと思います。一人だったらモチベーションを保つことは難しかったと思うのでこれから公務員を目指す皆さんも是非、公務員講座やゼミと一緒に頑張れる仲間を見つけて目標にチャレンジしてってください。

時代の“潮流と深層”を読み解く。

慶應丸の内シティキャンパスの定例講演会

『タ学(せきがく)オンライン』開催

「タ学オンライン」は、慶應 MCC と株式会社ファシオとの共催事業として、タ学講演会をインターネットでリアルタイム視聴できるサービスです。お手元の PC・スマートフォン等の各デバイスからお好きな場所に受講ができ、後日 1 週間の見逃し配信もご利用いただけるサービスです。

- 開催時間：18：30～20：30
- 受講料：1 講演 4,400 円
全講演パック 55,000 円
- 全講演：後日 1 週間見逃し配信付。

2024 年度 前期「慶應 MCC タ学オンライン」一覧（全 15 回）

4月9日(火)

森林 貴彦

慶應義塾高等学校野球部 監督
慶應義塾幼稚舎 教諭

「「常識」を問い直した指導の道」

4月18日(木)

池上 彰

ジャーナリスト

「世界はどう動くのか」

4月24日(水)

柳沢 正史

筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構 機構長・教授
株式会社 S'UIMIN 代表取締役

「睡眠の謎に挑む～基礎研究から睡眠ウェルネスへ～」

4月26日(金)

花田 光世

一般財団法人 SFC フォーラム 代表理事
慶應義塾大学 名誉教授

石山 恒貴

法政大学大学院政策創造研究科 教授

「何をいまさらとはいえない、“人”から始める組織の成長」

5月10日(金)

錦田 愛子

慶應義塾大学法学部 教授

「イスラエルとパレスチナ相克の歴史」

5月17日(金)

川西 泉

ソニー・ホンダモビリティ株式会社
代表取締役社長 兼 COO

「車からモビリティへ～AFEELA が目指すもの～」

5月20日(月)

黒川 伊保子

株式会社感性リサーチ 代表取締役社長

「人生に効く脳科学～脳の本番は 56 歳から始まる～」

5月28日(火)

今井 むつみ

慶應義塾大学環境情報学部 教授

「言語の本質」

6月4日(火)

東 浩紀

批評家・作家
株式会社ゲンロン 創業者

「「訂正すること」の意味と価値」

6月11日(火)

笠原 将弘

日本料理「賛否両論」店主

「「腕・舌・遊び心」というモットー」

6月20日(木)

山田 英夫

早稲田大学ビジネススクール 教授

「カニバリゼーション（事業の共喰い）にどう対応すべきか？」

6月26日(水)

鈴木 おさむ

放送作家

「120%の力を、次のステージへ」

7月4日(木)

シェルバ 英子

株式会社ユニクロ グローバルマーケティング部
サステナビリティマーケティングチーム 部長

「ユニクロのサステナビリティ 23 年の軌跡」

7月19日(金)

劉 慶紅

慶應義塾大学大学院経営管理研究科 教授
日本経営倫理学会 常任理事

「不易流行の経営学を目指して
～稲盛経営哲学を出発点として～」

7月23日(火)

福澤 克雄

株式会社 TBS テレビ コンテンツ制作局ドラマ制作部
演出家・映画監督

「『VIVANT』とテレビ局社員」

2024 年度 後期「慶應 MCC タ学オンライン」一覧（全 15 回）

10月11日(金)

佐藤 優

作家
元外務省主任分析官

「国際関係で強まる新帝国主義と日本の進路」

10月21日(月)

三宅 香帆

文芸評論家

「なぜ働いていると本が読めなくなるのか」

10月30日(水)

一條 和生

IMD 教授
一橋大学 名誉教授

「新・両利き経営の時代：AI と人間の知識創造の連鎖」

10月31日(木)

森 知也

京都大学経済研究所 教授
経済産業研究所ファカルティフェロー

「人口減少下での 100 年後の日本を考える
～地域、都市、家族のゆくえ～」

11月5日(火)

廣田 康人

株式会社アシックス 代表取締役会長 CEO

「世界で戦う組織づくり」

11月6日(水)

田中 聡

立教大学経営学部 准教授

「これからのリーダー育成を科学する」

11月18日(月)

今井 翔太

AI 研究者

「生成 AI で世界はこう変わる」

11月27日(水)

大木 聖子

慶應義塾大学環境情報学部 准教授

「日本列島の置かれている地震環境とその対策
～チームビルディングとしての防災～」

12月3日(火)

舟津 昌平

経営学者
東京大学大学院経済学研究科 講師

「Z 世代化する社会を読み解く」

12月10日(火)

山本 勲

慶應義塾大学商学部 教授

「睡眠と人的資本で勝つ経営」

12月19日(木)

鈴木 俊貴

動物言語学者
東京大学 准教授
東京大学 卓越研究員

「シジュウカラ語の発見と動物言語学の挑戦」

12月23日(月)

和泉 悠

南山大学人文学部人類文化学科 准教授
南山大学 言語学研究センター長

「『悪口』の正体～有害言語のメカニズム～」

1月10日(金)

山口 周

コンサルタント
作家

「クリティカル・ビジネス・パラダイム
～価値観のアップデートを～」

1月16日(木)

村上 靖彦

大阪大学人間科学研究科 教授
感染症総合教育研究拠点 CIDER 兼任教員

「客観性に閉じ込められる私たち」

1月24日(金)

柳 幹康

東京大学東洋文化研究所 准教授

「教養としての仏教：苦しみをどう越えるのか」

本学では、2003 年から 2019 年まで「タ学五十講」サテライト会場として ICT 機器を活用し、東京の最先端の知識を岡山へと配信してまいりました。2020 年からは「タ学オンライン」の広報協力をを行い、2021 年度後期より 2024 年度前期まで、岡山商科大学限定のクーポンを配布してまいりました。

しかしながら、諸般の事情により 2024 年度後期をもちまして、本学からの「タ学オンライン」に関するご案内を終了させていただくこととなりました。これまで長きにわたりご利用いただいた皆様には、心より感謝申し上げます。

商大講座のご案内

～出前講義：

講師がお近くまで伺います！～

岡山商科大学社会総合研究所
〒700-8601

岡山市北区津島京町 2-10-1

T E L 086-256-6656 (直通)

F A X 086-256-6673

E-mail syaken@po.osu.ac.jp

お申し込みができるのは？

30 名程度の聴講者が見込める、岡山県内の公共・一般団体や企業です。

講座のプログラムは？

次ページをご参照ください。

1 講座は 1 時間から 2 時間（質疑応答を含む）の構成になっております。プログラムに掲載のないテーマにも対応させていただきますのでご相談ください。

費用は？

講師料は無料です。ただし、会場の手配・設営および案内発送に係る事務作業や費用は申込者にてお願いします。（※受講者から料金を徴収されている場合は、講師料が発生します。講師料は応相談。）

申込手続きは？

お電話、FAX、E メールで上記までお問い合わせください。

開講にあたっての注意

教員の都合等により、必ずしもご希望に添えないことがあります。

2024 年度 実績

開催日	講座内容	会場	講師
8 / 28 (水)	「発想法ワークショップ」 (瀬戸内市役所総合政策部企画振興課)	瀬戸内市役所	三好 宏 (経営学部教授)
4 / 15 (月) 6 / 3 (月) 4 / 22 (月) 6 / 17 (月) 5 / 20 (月) 7 / 1 (月) 5 / 27 (月) 7 / 22 (月)	「前期リフレッシュダンス教室」 ～健康な心とからだづくりをめざして～		青山 敦子 (社会総合研究所客員教授) 小野 陽美 (社会総合研究所特別研究員)
9 / 2 (月) 11 / 11 (月) 9 / 30 (月) 11 / 18 (月) 10 / 7 (月) 12 / 2 (月) 10 / 21 (月) 12 / 16 (月)	「後期リフレッシュダンス教室」 ～健康な心とからだづくりをめざして～		青山 敦子 (社会総合研究所客員教授) 小野 陽美 (社会総合研究所特別研究員)
1 / 20 (月) 2 / 10 (月) 1 / 27 (月) 3 / 3 (月) 2 / 3 (月) 3 / 17 (月)	「ミニリフレッシュダンス教室」 ～健康な心とからだづくりをめざして～		青山 敦子 (社会総合研究所客員教授) 小野 陽美 (社会総合研究所特別研究員)

詳しくは本学 HP

(http://www.osu.ac.jp/society/program/) にて。

トップ→ 地域・社会→ 社会人リカレント教育



商大講座プログラム 2024

	テーマ	所属学部等	講師氏名	担当講義・専門分野
※注目イベント※	リフレッシュダンス教室 ～健康な心とからだづくりをめざして～ 音楽に合わせてゆっくり身体を動かしたり、頭の体操をしたり、誰でも出来る手軽な体操やダンスなどに親しむことを主としています。シニア層の方も安心して受講できる内容です！	社会総合研究所 客員教授	青山 敦子	元高校保健体育教師
		社会総合研究所 特別研究員	小野 陽美	体育 ダンス指導

※注目イベント※	発想法ワークショップ (はっ！そう？！ほ～。ワークショップ)	商学科教授	三好 宏	地域マーケティング ビジネス概論
	御社が抱えている個別の課題をテーマとし、新たな気づきや視点の発見など、課題解決の「糸口」を一緒に考えます。例えば「新サービスでお客さまを増やしたいけどアイデアがない」「店舗の雰囲気についてお客様のご意見を聞いてみたい」など、岡山商科大学の学生と教員が貴社のためのワークショップをいたします。 ※費用：無料	法学科 経済学科 経営学科 商学科	本学学生	
教 養	・戦後ドイツにおける「過去の克服」	商学科教授	香月 恵里	ドイツ語 ドイツ文学
	・吉備の古代史入門	商学科特任教授	福本 明	博物館学芸員課程 考古学
	・シェイクスピアと言葉 ・シェイクスピア劇におけるよりよい生き方	商学科教授	松浦 英佐子	英語学 英文学
	・国際交流と英語 ・表現力	経済学科講師	宮島 宏幸	英語コミュニケーション Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ／初級Ⅰ・Ⅱ
法 学	・生命倫理 ・臓器売買	法学科特任教授	粟屋 剛	生命倫理と法
	・消費生活と契約	法学科准教授	倉持 弘	民法
	・刑事司法の現状と課題 ・現在の犯罪・非行の情勢について	法学科教授	白井 諭	刑事訴訟法 刑事政策
	・国際裁判による紛争の平和的解決	法学科教授	砂川 和泉	国際法
	・身近な税金	法学研究科特任教授	水野 忠恒	租税法
経 済 学	・医療と法 ・消費生活と法	法学科教授	山下 登	医事法 民法
	・中国経済の構造転換	経済学科教授	田中 勝次	国際金融論
	・ウクライナ・東欧の現状と課題 ・ヨーロッパ経済の現状と課題	経済学科教授	吉井 昌彦	ヨーロッパ経済 ロシア・東欧経済
経 営 学 ・ 商 学	・中国企業の現状と課題	経営学科准教授	于 琳	国際経営論 経営管理論
	・金融リテラシー概説 ・相続と住宅管理 ・空き家対策	商学科教授	海宝 賢一郎	ファイナンシャル プランニング 不動産管理論
	・デジタルトランスフォーメーション（DX）の勘どころ	経営学科教授	門脇 一彦	技術経営
	・電子商取引の現在 ・電子マネーの現在	商学科教授	蒲 和重	流通システム論
	・学びを支えるICT ・身近な科学と技術	経営学科教授	小松原 実	情報技術論 マルチメディア表現・技術
	・生涯にわたる資産運用と引き出し方法	商学科教授	城下 賢吾	コーポレートファイナンス ポートフォリオマネジメント
	・ライフプランニングと資金計画 ・資産運用設計	商学科教授	高林 宏一	FP 学科・実技分野
	・証券投資の基礎知識	商学科教授	鳴滝 善計	証券市場論 金融資産運用設計
	・戦略経営と管理会計：財務・非財務指標による管理	経営学科特任教授	浜田 和樹	管理会計
	・サービスの提供は人としての成長 ・マーケティングの魅力と危険性	商学科教授	松井 温文	流通マーケティング サービス・マーケティング
	・発想法ワークショップ ・観光・まちづくりのマーケティング	商学科教授	三好 宏	地域マーケティング ビジネス概論
	・情報化社会における脅威と身の守り方	経営学科准教授	箕輪 弘嗣	メディア情報学 情報ネットワーク論
	・ことばと文化の交差点 ー観光サインの多言語化を考えるー	商学科准教授 // 教授 // 教授	徐 沆廷 黎 曉妮 松浦 英佐子	観光学 日本語教育学 英語学・英文学

著書紹介

『ドイツ文学と映画』

山本 佳樹、市川 明、増本 浩子、香月 恵里 他 [共編著]
三修社 (2024)

経営学部商学科 教授 香月 恵里

本書は、文学と映画の多彩な関係について論じた本です。19 の作品を扱っていますが、おそらく最も有名なのは、トーマス・マン著『ヴェネツィアに死す』の映画化作品でしょう（邦題は『ベニスに死す』）。しかし、この映画の監督はイタリアの巨匠ヴィスコンティで、美少年に魅了され、没落へと至る主人公のドイツ人音楽家はなぜか英語で話しています。つまり、この本は、ドイツ語圏文学を原作とする映画についての本なのです。よって、プラハの作家カフカの名作『変身』を原作とする同名のロシア映画や、オーストリアの作家シュニッツラーの『夢小説』を題材とするキューブリック監督の遺作『アイズ・ワイド・シャット』をはじめ、多国籍で多彩な作品が扱われることになりました。

文学作品の映画化という、原作に忠実でなければならないという考えがあるかもしれませんが、近年、映画は先行する原作に対する創造的な解釈である、という考えが優勢になっています。例えば、ナチに追われる難民の苦難を描いたアンナ・ゼーガースの文学作品『トランジット』（原作は 1944 年）は、ペツォルト監督の翻案によって、現代フランスを舞台とし、2015 年のヨーロッパ難民危機を強く意識した新しい作品となっています。また、シュレンドルフ監督の映画『ブリキの太鼓』（1979）はかつて日本でも一世を風靡した感がありましたが、ハッピー・エンドにも見えるこの映画は実は原作の前半に過ぎず、後半で主人公オスカルがたどる不吉な人生のことは描かれていません。監督は原作者のグンター・グラスと共同で、いわば、新しい作品を創造したのです。

ドイツ語圏の文学は映画の世界に豊かな題材を提供してきました。フランス映画やアメリカ映画と比べて地味なドイツ映画ですが、その奥深い世界をぜひ知っていただきたいものです。また、原作と比べてみて映画監督の意図を探るのも面白いことだと思います。



著書紹介

『新経典日本語聴力教程』

『新経典日本語聴力教程 解説と練習問題集』（第二／三冊・第三版）

第二冊 羅 米良、蘇 君業、劉 曉華、劉 艶、李 冠男、宋 岩 [著]

第三冊 王 昱、蘇 君業、李 燕、顔 曉冬、白 春陽 [著]

外国語教育研究出版社 (2024)

経営学部経営学科 教授 蘇 君業

本書は中国教育部の「大学本科専門教育に関わる国の規準・日本語専攻教学指針」に定めた教育目標や規準及び課程体系に準拠し、日本国際交流基金会の「JF 日本語教育スタンダード」を参考にした上で開発した教科書である。第一冊から第四冊まで全 8 冊で、2024 年度に出版したのはその第二・三冊の第三版である。

本書は日本語専攻の大学 1・2 年次を対象とするものである。初中級段階で文法や場面別の「任務型」や中級段階で日本社会や文化の理解を中心にする「話題別型」という学習対策を通して、N5 から N2 レベルまで総合な日本語聴解力の育成を目指すものである。本書を開発するにあたって、特に工夫したのは次の点である。①聴解活動における音声インプットの役割を重視し、自然な文脈のある話や会話を聞く場面を設けた。またイラストや写真などを工夫したことで異文化理解へのヒントを与えて、日常場面でのコミュニケーションの実践力をつける。②聴解活動をめぐって、「聞いて選ぶ」「聞いて書く」「シャドーイングする」「聞いて訳す」といった形で必要なスキルに重点を置いた。③本書に関わる CD、PPT、e ラーニングシステム、モデル講義の動画、試験問題データベースなどの開発も同時に進めている。今回で 3 回目の改訂で、特に難易度、論理性、社会性、写真の著作権、教科書関連ものの開発などに力を入れている。

本書は 2024 年末の時点で累計発行部数は 47 万冊となっている。遼寧省初回優秀教材賞を受賞した。大学日本語専攻の教科書に選定され、中国の 200 余りの大学に採用された。



『新経典日本語聴力教程』／
『新経典日本語聴力教程 解説と練習問題集』（第二冊・第三冊）

(一社)岡山経済同友会 ボランティア・プロフェッサー制度 「岡山経営者論Ⅰ・Ⅱ」

岡山商科大学では、(一社)岡山経済同友会のご協力のもと、ボランティア・プロフェッサー制度によるオムニバス講義「岡山経営者論」を1996年から開講しています。これは、実学教育の観点から、実社会で経営に携わられている方や、第一線で実務を担当されている皆様から、経営に対する想いや、事業運営の実際を、学生にご講義いただき、教科書だけによらない、生きた経営学を学ばせるために開講しているものです。ご登壇いただく方は、企業のみならず、行政機関や各種団体など、多岐にわたります。

2024年度前期は「新しい価値を創造する企業の経営」、後期は「人と心による経営」をテーマにお話をいただきました。

2025年度前期は「街づくりと地域を考える経営」、後期は「将来を考える経営」をテーマとして計画しています。



2024年度前期の講義日程、講義企業名及び講師名（ボランティアプロフェッサーの日程のみ）

講義日	講義企業・団体等	役職	講師名
4月15日(月)	岡山トヨタ自動車(株)	代表取締役社長	梶谷 俊介 様
4月22日(月)			
5月1日(水)	(株)サンラヴィアン	代表取締役社長	占部 守弘 様
5月13日(月)			
5月20日(月)	税理士法人パートナーズ	代表社員	川本 洋 様
5月27日(月)			
6月3日(月)	(株)真庭運創研	代表取締役社長	小林 一昭 様
6月10日(月)	(株)佐田建美	代表取締役社長	佐田 時信 様
6月17日(月)	クラカグループ・倉敷青果(株)	取締役・カット野菜部部长	寺田 幸司 様
6月24日(月)	邦美丸	漁師	富永 邦彦 様 富永 美保 様
7月1日(月)	(株)アイリス	代表取締役社長	石川 哲也 様
7月8日(月)	クラカグループ・倉敷青果(株)	取締役・カット野菜部部长	寺田 幸司 様

2024年度後期の講義日程、講義企業名及び講師名（ボランティアプロフェッサーの日程のみ）

講義日	講義企業・団体等	役職	講師名
9月30日(月)	黒住教	教主	黒住 宗道 様
10月7日(月)			
10月17日(木)	イスラーム	アル・アマーナ代表	河田 尚子 様
10月21日(月)	真言宗	長泉寺住職	宮本 龍門 様
10月30日(水)			
11月11日(月)	天台宗	本性院住職	永宗 幸信 様
11月18日(月)		常楽寺副住職	長谷川 裕展 様
11月25日(月)	カトリック	岡山教会助任司祭	バヴァン・マルネニ 様
12月2日(月)		岡山教会主任司祭	服部 大介 様
12月9日(月)	金光教	財務部長	橋本 信一 様
12月16日(月)		足守教会長	杉本 健志 様

2024 年度 孔子学院活動報告

孔子学院 学院長 経営学部商学科 教授 黎 曉妮

岡山商科大学孔子学院は、2007 年 6 月に「中国孔子学院本部」から設置が認可され、同年 11 月に中国側協定大学である大連外国語大学と業務提携調印式並びに開設式を執り行い、今年では設立 17 周年を迎えました。2020 年 6 月に、孔子学院の所属は「中国孔子学院本部」から「中国国際中文教育基金会」という中国の関係大学、企業、民間団体が共同で設立した組織に移行しました。そして、2022 年 12 月に「中国国際中文教育基金会、中国大連外国語大学と日本岡山商科大学が孔子学院を共同で設置することに関する協定書」が署名され、「岡山商科大学と大連外国語大学『岡山商科大学孔子学院』に関する業務提携協定書」が更新されました。

本学院は 2024 年度も中国語教育や様々な文化交流活動を行いました。特に 2019 年度を最後に長らく不

開催になっていた中医学健康法講座は 5 年ぶりに開催され、東洋医学的に免疫力の高い心身を作るための生活習慣のポイントを勉強しました。さらに、昨年度に続き大連外国語大学芸術団をお迎えし、中国民族楽器の演奏会を行いました。また同大学国際芸術学院から講師をお招きし、中国絵画講座も開催し、先生の指導のもと参加者は中国水墨画を体験しました。本年度 4 月に大連外国語大学日本語学院孟海霞准教授が孔子学院中国側副院長として派遣され、岡山商科大学総務企画課佐々木皓平主任が孔子学院事務局長に就任しました。スタッフは一丸となって、2024 年度の事業（2024 年度岡山商科大学孔子学院活動一覧を参照）を展開しました。なお、今年度の岡山商科大学孔子学院理事会は大連外国語大学学長の交代により、年度内書面審議にて開催することになりました。



第 59 回商大祭出店（10.26～27）



中国伝統芸術鑑賞会（11.23～24）



中医学健康法講座（12.21）



中国絵画講座&春節交流会（2025.1.25）

2024 年度 岡山商科大学孔子学院活動一覧

4 月	19 日	世界中文の日（中国 56 民族パネル展）
5 月	25 日	岡山県立津山商業高等学校生徒との端午節交流会（津山商業高校にて）
8 月	30 日	第 7 回西日本地区中日友好交流大会に参加（岡山にて）
9 月	21 日	大連外国語大学創立 60 周年記念式典に参加（大連にて）
	28 日	岡山商科大学孔子学院設立 17 周年記念行事 ◇中国の伝世名画パネル展～其の一 ◇孔子学院の日（公開ミニ中国語講座、太極拳体験） ◇中国芸術講座 テーマ：中国絵画の特質について 講 師：孟 海霞（大連外国語大学日本語学院 准教授 孔子学院副院長）
10 月	5 日	岡山商科大学孔子学院中国語スピーチコンテスト & 第 4 回全日本中国語スピーチコンテスト 岡山県大会 ◇スピーチ部門（一般部門、大学生部門、高校生部門） ◇朗読部門（一般の部、大学生・大学院生の部、中学生・高校生の部）
	19 日	日本孔子学院協議会に参加（愛知大学孔子学院にて）
	26～27 日	第 59 回商大祭出店（中国文化体験）
11 月	15～17 日	2024 世界中文大会に参加（北京にて）
	23～24 日	中国伝統芸術鑑賞会（大連外国語大学芸術団による中国民族楽器の演奏） 第 1 回 場 所：岡山商科大学孔子学院 第 2 回 場 所：RSK 能楽堂ホール tenjin9（テンジンナイン）
12 月	21 日	中医学健康法講座 テーマ：東洋医学的 健康・長寿になる！ 免疫力アップの第一歩：睡眠編 講 師：福家 慎太郎（神戸東洋医療学院副院長・孔子課堂長）
1 月～12 月		◇毎週金曜日 RSK ラジオ中国語講座「商大孔子学院コーナー」 テーマ：中国留学で使える中国語を覚えよう ◇毎月第 1 金曜日 レディオモモ孔子学院ラジオ番組 テーマ：中国文化について
5 月～7 月		遠隔通信システムによる高校中国文化授業（岡山県立津山商業高等学校）
4 月～8 月		前期中国語講座
9 月～2025 年 2 月		後期中国語講座
2025 年		
1 月	22 日	2025 年迎春レセプションに参加（大阪にて）
	25 日	◇中国絵画講座 テーマ：中国画入門～水墨山水画について 講 師：王 春雨（大連外国語大学国際芸術学院准教授） ◇岡山商科大学留学生と一般市民の春節交流会
2 月	11 日	2025 年中日友好新春互礼会に参加（岡山にて）

2024 年度の商大塾を振り返り

社会総合研究所 次長 経営学部経営学科 准教授 吉良 友人

資格取得支援を行っている「商大塾」を通じて、各種資格の合格に向けた学内試験対策講座や学外講座（商大塾の推奨講座）を受講することによって、税理士や宅地建物取引士をはじめとした国家資格の合格者も少数ながら安定的に排出されるようになってきました。

◆ビジネス実務に関連した難関資格合格者を今年も輩出

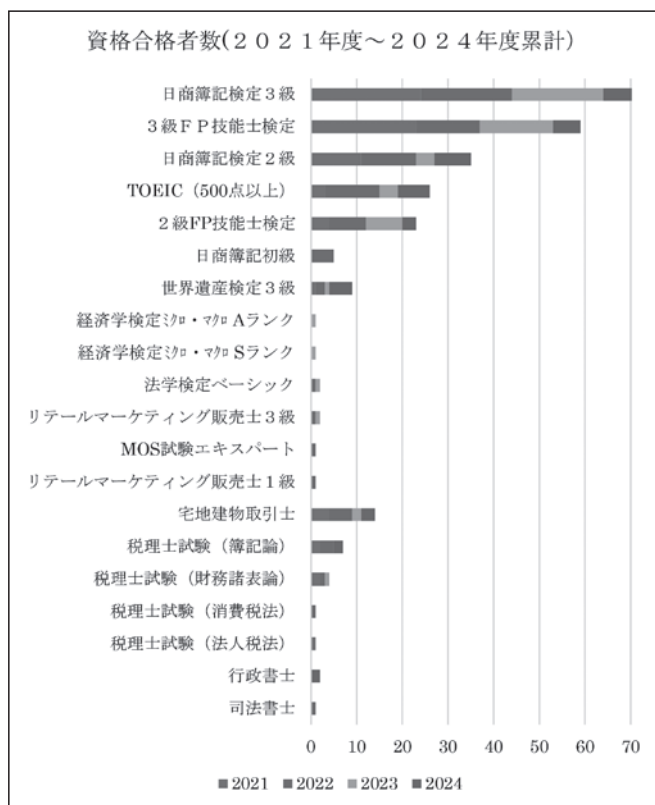
今年度も学生たちが難関資格に合格しました。税理士試験については簿記論に2名が合格しました。そのうち1名はすでに財務諸表論にも合格しています。また、宅地建物取引士では3名の合格者がでており、こちらも堅調です。さらに、今年は行政書士に2名が合格しており、法律系の資格合格者も少しずつ増えてきている印象です。

商大塾では、来年度も引き続き学生との面談を行い、個々人のレベルに合わせて早い段階から目標を達成するためのプランを提案することで、今後も学生の資格取得を支援していきます。

◆ダブルスクールで国家資格合格を目指す

国家資格については、提携先の学外講座（資格の専門学校での通学講座）を受講するダブルスクールによる学習が定着してきており、税理士講座などの会計系の資格講座や宅地建物取引士などの不動産実務に直結する資格については、学外講座を積極的に受講して合格に結びつけています。

商大塾では、提携先の受験指導校の受験料割引制度や資格試験合格者に対する報奨金制度などにより学習支援を行っており、学生も上手に活用してくれています。



ちょっと振り返り ～過去からの合格実績～

2級FP技能士	88名	(2008年度～2024年度の累計)
3級FP技能士	267名	(//)
AFP認定者	43名	(2010年度～2024年度の累計)
日商簿記2級	72名	(2011年度～2024年度の累計)
日商簿記3級	136名	(//)
販売士2級	17名	(2012年度～2024年度の累計)
販売士3級	30名	(//)

※ AFP認定者は日本FP協会への登録完了者数

本学は、実践的能力の取得や社会人としての教養を身につけ、早期から社会人となるための意識を高めるよう学生を指導しています。

そうした中で、国家資格や検定試験へのチャレンジを学生に促し、積極的に受験できるよう「有限会社ソフトレビュー」ならびに「株式会社 E-prost」と連携して、資格試験講座・通信教育講座等を実施しています。

また、国家資格試験等に合格した場合、報奨金を支給する「岡山商科大学資格取得支援制度」を設けています。本年度も多数の皆さんが、国家公務員採用試験・国家資格試験に合格されました。

公務員試験合格者 (2024 年度)		資格取得支援制度 (報奨金) 対象者
国家公務員	国家公務員一般職 (厚生労働事務官)	1 名
地方公務員	岡山県教員採用試験	1 名
	岡山市教員採用試験	1 名
	島根県教員採用試験	1 名
	徳島県教員採用試験	1 名
	神戸市教員採用試験	1 名
	新見市職員採用試験	1 名
	新居浜市職員採用試験	1 名
警察官	愛媛県警察官採用試験	1 名

資格試験講座一覧

日商簿記検定 (3 級) 講座

MOS 対策講座 (Excel) 等

WEB 資格講座 (提供: 株式会社 E-prost)

教員採用試験対策講座

各教員による勉強会

リテールマーケティング (販売士) 検定勉強会

FP 技能検定勉強会

資格試験合格者 (2024 年度)		資格取得支援制度 (報奨金) 対象者
行政書士		2 名
税理士試験 (簿記論)		2 名
宅地建物取引士		3 名
FP 技能検定	2 級	7 名
	3 級	10 名
日商簿記検定	2 級	9 名
	3 級	6 名
TOEIC (500 点以上)		7 名
IT パスポート		2 名
秘書検定	2 級	2 名
国内旅行業務取扱管理者		1 名
法学検定ベーシック		1 名
日本語能力試験※	N1	6 名
	N2	11 名
世界遺産検定※	3 級	5 名

※資格取得支援制度 (報奨金) 対象外資格

(注) 岡山商科大学資格取得支援制度の詳細については社会総合研究所 (商大塾) までお問い合わせください。

合格者の声



行政書士合格

法学部法学科 2 年
斉藤 裕紀



法学部に入学した以上、法律系の資格を取りたいと考えておりました。行政書士試験が資格試験の登竜門と呼ばれていることを知り、挑戦することを決意しました。

行政書士試験に合格できたことには、数々の要因があると思います。

まず、計画をしっかり立てたことです。行政書士試験は出題範囲がやや広めなので、自分がやるべき全体の分量を把握するところから始めました。木を見て森を見ずという言葉があるように、自分の方向性が正しいのかどうか客観視するためです。これらを把握した上で、1 日の勉強量を算出し、細かく計画を立て、随時練り直しもしていきました。

次に、勉強時間を確保したことです。大学の講義がある日は、講義後から深夜まで、休日は朝から深夜まで時間を作りました。隙間時間に勉強ができるという方も居られるとは思いますが、自分はそんなに器用な人間ではないため、まとまった時間を

作るようにしました。

そして、予備校を利用したことです。予備校は資格試験合格のプロなので、利用することをおすすめします。商大塾でも予備校を紹介して下さるみたいなので、資格に興味のある方は商大塾に問い合わせてみるのがよいかと思います。

最後に、周りの環境に恵まれていたことです。これが最も大きな要因だと思います。一緒に受験した仲間、応援してくれた友達、家族、先生、勉強会を開催して下さった先生など周りの方のおかげで合格することができました。一緒に受験した友人も同じく受かったので大変うれしく思っております。また、勉強会を開催して下さった山下登先生、比嘉正先生のお二人には、感謝してもきれません。

この合格体験記をご覧の方で、資格試験を目指している方も居られると思います。2025 年度も勉強会を開催して下さっているのです、ぜひ参加してみてください。

来年度に司法書士試験を受験するので、再び商大レビューでお会いしましょう。

岡山商科大学は勉強をするのにとても良い環境です。



税理士試験(簿記論)科目合格

経営学部経営学科 3年
佐藤 輝尚



私が税理士を目指したきっかけは、税理士試験の特徴にあります。

税理士試験は全11科目があり、そのうち5科目に合格する必要があります。これを聞くと、5科目全て合格しなければ意味がないように思われがちですが、実際にはそうではありません。1科目ごとに価値があり、1科目でも合格すれば就職活動において非常に有利になります。つまり、1科目でも合格があれば就職活動が楽になり、その後の努力次第で税理士になることも可能なのです。この点に魅力を感じ、税理士試験を意識するようになりました。

しかし、税理士試験を目指す上で一つ大きな悩みがありました。それは試験の難易度です。実際に調べてみると、税理士試験の合格率は15%~20%と低く、また800時間程度の勉強時間が必要だと言われており、自分が本当に合格できるのか不安に感じたことを覚えています。しかし、仮に

合格できなくても、試験を受けた経験が就職活動のネタになるだろうと考え、挑戦してみることに決めました。

しかし、いざ勉強を始めてみると思ったより難易度は高くありませんでした。範囲こそ広いものの、それぞれは段階を踏んで勉強すればきちんと理解できるものでした。もちろん難しい問題もありましたが税理士試験は難しい問題にあまり力を入れる必要がないためなにかなりしました。

最後に、税理士試験合格を目指す中で一番大変だったのは間違いなく最初の一步を踏み出すことでした。毎日数時間勉強しなければいけないこと、試験や資格学校について調べること、親に学費のお願いをすることなど嫌なことばかりでした。当時は一切勉強をせず趣味に没頭する毎日だったため、余計最初の一步は重かったと思います。しかし、あの時勇気を振り絞ったからこそ今これを書くことができているのだと思います。そのため、なにかに挑戦しようとしている人は勇気を振り絞って最初の一步を踏み出してみてください。それができればもう勝ったようなものです。



宅地建物取引士合格

法学部法学科 4年
新田 春風



私が宅地建物取引士の勉強を始めたのは、就職活動が終わった7月頃からです。宅地建物取引士の勉強をすることで、自分自身のスキルアップにつながると考え、勉強を始めました。

宅建の勉強をするにあたって、3つのことを心がけました。

1つ目は、自分のやりたいことを我慢しないことです。学生生活最後の夏休みでもあったため、遊びやアルバイトなどを宅建の勉強のために我慢しないようにしました。勉強を続けるためにはモチベーションがとても大切だと考え、やりたいことは100%楽しむように心がけました。その結果、やりたいことを満喫するために勉強を頑張る、という良い循環が生まれていたと思います。

2つ目は、毎日15分だけでも勉強することを意識したことです。私は集中力があまり持続しないため、3~4時間も机に向かって勉強するのは苦手でした。だからこそ、たとえ短時間でも勉強

を継続することを目標にしました。どんなに遅く帰宅しても、15分だけは勉強するよう心がけ、バイトの前や旅行の移動時間など、空いた時間にはスマホアプリを活用して問題を解き、隙間時間を有効に使いました。宅建の勉強期間中、3時間以上勉強した日は一度もありませんでしたが、毎日問題に触れる習慣を続けることができました。

3つ目は、1冊の問題集に集中することです。宅建は範囲が広く、覚えることが膨大です。そのため、多くの問題集や参考書に手を出すのではなく、1冊の問題集に絞って繰り返し取り組みました。1冊の問題集には、合格に必要な知識が全て詰まっていると信じ、徹底的に周回しました。実際に使用した教材は市販の問題集と予想模試のみで、教材費は5000円もかかりませんでした。

この3つを心がけた結果、宅建試験に無事合格することができました。

今回、私が合格できたのは、いつも温かい応援をしてくれた家族や友人など、周りの人たちのおかげだと思っています。その人たちへの感謝の気持ちを忘れず、これからも努力を続けていきたいと思っています。

社会総合研究所後援会役員会を開催

社会総合研究所 次長 吉良 友人

2025年2月27日、社会総合研究所後援会役員会を岡山プラザホテルにて開催いたしました。後援会理事のみなさまをお招きし、社会総合研究所や各学部、全学共通プログラム、産学官連携センターの活動と展望についての報告を行いました。そして、これに対して理事のみなさまからは貴重なご意見を賜りました。

学生の多様化が進んでいる状況を鑑みると、これからは学生の個性を見抜いてそれをどのように伸ばしていくのが重要であり、教員がそのための眼を養う必要があるとのご意見がありました。そして、そのためには学生の気持ちに寄り添うことが大事であり、心理学の考え方が教育現場でも必要になってくる（企業の経営者は既に取り入れている）のではないかとのご意見もいただきました。岡山商科大学の強みは学生に寄り添うところにあると考えておりますので、これが今後失われないために必要なことであると思います。

また、YouTubeなどで有名講師の授業動画を視聴できる環境において、専門家がきちんとセレクトした内容を提供するところに大学の意義があるのではないかとのご意見もありました。さらに、途轍もない速度で変化している世の中についていく能力を身につける必要があるとのご意見もありました。これらの点につき、他の学びの場とどのように差別化していくのか、世の中の状況を今以上に教育に反映させるにはどうすればよいのかを考える必要性を感じました。

今回も第一線でご活躍中のみなさまから貴重な生の声をお聴きすることができました。岡山という土地を魅力的にするためには住民の人柄が大事であるというお話も伺い、知識面以外の教育の必要性を再確認する機会もいただきましたので、社会総合研究所もこれらにしっかりと向き合っていく所存でございます。

岡山商科大学社会総合研究所後援会役員名簿（2024年3月）（敬称略）（理事は五十音順）

代表理事	岡 崎 彬	岡山ガス株式会社	代表取締役会長
理 事	秋 山 進 彦	倉敷化工株式会社	相談役
理 事	木 谷 忠 義	株式会社さえら	代表取締役会長
理 事	黒 住 宗 道	黒住教 教主	
理 事	小 嶋 光 信	両備ホールディングス株式会社	代表取締役会長
理 事	近 藤 弦 之 介	弁護士法人 太陽綜合法律事務所	代表弁護士
理 事	斎 藤 和 好	株式会社天満屋	代表取締役社長
理 事	永 山 久 人	下津井電鉄株式会社	代表取締役会長
理 事	服 部 俊 也	服部興業株式会社	代表取締役社長
理 事	原 憲 一	RSK 山陽放送株式会社	相談役
理 事	松 岡 徹	旭電業株式会社	代表取締役社長
理 事	渡 邊 輝 謹	株式会社中国銀行	取締役常務執行役員



所長挨拶

2024 年度活動報告

社会総合研究所 所長 海宝 賢一郎



2024 年度は、地域と連携した多くのフィールドスタディ等の実践的研究活動が実施できました。本学の学生および地域の関係者にとって、大変有意義な年になったものと感じております。

慶應丸の内シティキャンパス（慶應 MCC）主催の夕学講演会は、オンライン受講になっておりますが、主催者側のご配慮によって、本学限定での割引制度を継続していただき、割安で講座提供ができたことに感謝申し上げます。

資格取得については、FP 技能検定試験や日商簿記検定試験の受検者数が増加し、中でも 2 級 FP 技能士を多く輩出できたことは、FP 関連科目の履修者が授業で学んだ知識をもとに、しっかりと受検対策も行った結果と考えます。また、国家資格についても、税理士科目や宅地建物取引士の合格者が毎年出るようになり、各々が資格取得に向けダブルスクールで頑張った結果が合格に結びついていると感じています。

次年度も、地域との連携、学生への資格取得支援等、当研究所の役割を果たせるよう、努力を重ねて参りますので、引き続きよろしくお願い致します。

最後になりましたが、当研究所後援会役員会にて貴重なご意見を賜りましたこと、日頃よりご協力いただいております代表理事の岡崎彬様をはじめ、理事の皆様にはこの場をお借りして御礼申し上げます。

岡山商科大学社会総合研究所後援会について

趣 旨

社会総合研究所は、地域社会の発展に寄与することを目的に設立された岡山商科大学の附属機関です。

事 業

社会総合研究所は「研究」、「資料収集」、「学生学習支援」の他に、対外的な 4 つの事業を遂行しています。

- 公開講演会・商大講座・通信教育講座
- 大学公開事業の開催
- 岡山商科大学学園誌『商大レビュー』『商大レポート』の発行
- 地域社会の当研究所に対するニーズの把握

後援会組織

社会総合研究所設立趣旨の徹底を図るために後援会が設けられています。現在の後援会役員は次の通りです。

- 理事 岡崎 彬（代表）、秋山 進彦、木谷 忠義、黒住 宗道、小嶋 光信、近藤 弦之介、斎藤 和好、
永山 久人、服部 俊也、原 憲一、松岡 徹、渡邊 輝謹（敬称略、理事は五十音順）

会 費

無料です。

会員の特典

会員は、下記の特典が受けられます。

- 1.『商大レビュー』『商大レポート』等の希望者無料配布
- 2.「岡山商科大学公開講演会」、「商大講座」等、大学公開活動の開催についてのご案内

お問い合わせ

岡山商科大学社会総合研究所

〒700-8601 岡山市北区津島京町 2-10-1 電話：086-256-6656 FAX：086-256-6673

URL：https://www.osu.ac.jp/society/organization/

附属経営研究所・社会総合研究所 1972（昭和47）年創設以降の活動経緯

1. 後援会理事・幹事（氏名のみ記載をしています）

1989年 から	代表理事	伊原木 一衛							
	理事	秋山 政彦	稲葉 侃爾	河内山 重高	林原 健	藤田 正蔵			
	代表幹事	佐藤 重雄							
	幹事	石田 祥史	岡崎 彬	木谷 忠義	黒瀬 知周	武田 修一	永山 久也	服部 弘平	
1993年 から	代表理事	伊原木 一衛							
	理事	秋山 政彦	稲葉 侃爾	河内山 重高	林原 健	藤田 正蔵			
	代表幹事	佐藤 重雄							
	幹事	石田 祥史	岡崎 彬	木谷 忠義	黒瀬 知周	近藤 弦之介	武田 修一	永山 久也	服部 弘平
2001年 から	代表理事	岡崎 彬							
	理事	伊原木 一衛	稲葉 侃爾	石井 稔	秋山 政彦	藤田 正蔵	小嶋 光信		
	代表幹事	永山 久也							
	幹事	石田 祥史	武田 修一	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	片山 義久		
2003年 から	代表理事	岡崎 彬							
	理事	伊原木 一衛	稲葉 侃爾	大倉 徹彦	秋山 政彦	藤田 正蔵	小嶋 光信		
	代表幹事	永山 久也							
	幹事	石田 祥史	武田 修一	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	片山 義久		
2004年 から	代表理事	岡崎 彬							
	理事	伊原木 一衛	稲葉 侃爾	大倉 徹彦	秋山 政彦	藤田 正蔵	小嶋 光信		
	代表幹事	武田 修一							
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	片山 義久	松本 光雄	永山 久人		
2005年 から	代表理事	岡崎 彬							
	理事	伊原木 一衛	稲葉 侃爾	大倉 徹彦	藤田 正蔵	小嶋 光信	秋山 進彦		
	代表幹事	武田 修一							
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	片山 義久	松本 光雄	永山 久人		
2008年 から	代表理事	岡崎 彬							
	理事	伊原木 一衛	稲葉 侃爾	藤原 隆昭	藤田 正蔵	小嶋 光信	秋山 進彦		
	代表幹事	武田 修一							
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	片山 義久	松本 光雄	永山 久人		
2010年 から	代表理事	岡崎 彬							
	理事	伊原木 一衛	永島 旭	藤原 隆昭	藤田 正蔵	小嶋 光信	秋山 進彦		
	代表幹事	武田 修一							
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	片山 義久	松本 光雄	永山 久人		
2012年 から	代表理事	岡崎 彬							
	理事	伊原木 一衛	永島 旭	原 憲一	藤田 正蔵	小嶋 光信	秋山 進彦		
	代表幹事	武田 修一							
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	片山 義久	松本 光雄	永山 久人		
2013年 から	代表理事	岡崎 彬							
	理事	伊原木 一衛	永島 旭	原 憲一	小嶋 光信	秋山 進彦			
	代表幹事	武田 修一							
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	片山 義久	松本 光雄	永山 久人		
2014年 から	代表理事	岡崎 彬							
	理事	伊原木 一衛	宮長 雅人	原 憲一	小嶋 光信	秋山 進彦			
	代表幹事	武田 修一							
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	松本 光雄	永山 久人			
2017年 から	代表理事	岡崎 彬							
	理事	伊原木 一朗	宮長 雅人	桑田 茂	小嶋 光信	秋山 進彦			
	代表幹事	武田 修一							
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	松本 光雄	永山 久人			
2018年 から	代表理事	岡崎 彬							
	理事	江國 成基	宮長 雅人	桑田 茂	小嶋 光信	秋山 進彦			
	代表幹事	武田 修一							
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	永山 久人				

2020年 から	代表理事	岡崎 彬							
	理事	江國 成基	宮長 雅人	桑田 茂	小嶋 光信	秋山 進彦			
	幹事	服部 弘平	木谷 忠義	近藤 弦之介	永山 久人				
2021年 から	代表理事	岡崎 彬							
	理事	秋山 進彦	江國 成基	木谷 忠義	黒住 宗道	小嶋 光信	近藤 弦之介	永山 久人	服部 弘平
		原 憲一	松岡 徹	宮長 雅人					
2022年 から	代表理事	岡崎 彬							
	理事	秋山 進彦	木谷 忠義	黒住 宗道	小嶋 光信	近藤 弦之介	斎藤 和好	永山 久人	服部 弘平
		原 憲一	松岡 徹	宮長 雅人					
2024年 から	代表理事	岡崎 彬							
	理事	秋山 進彦	木谷 忠義	黒住 宗道	小嶋 光信	近藤 弦之介	斎藤 和好	永山 久人	服部 俊也
		原 憲一	松岡 徹	渡邊 輝謹					

(※ 2021 年度から幹事を理事に統合 五十音順標記)

2. 主な活動

附属経営研究所	1972（昭和 47）年～1998（平成 10）年（井尻 裕 前学長）
研究所報	1976（昭和 51）年～2006（平成 18）年 以降 休刊
後援会役員会	1989（平成 元）年～現在に至る
商大レポート	1990（平成 2）年～1992（平成 4）年
商大レビュー	1993（平成 5）年 創刊 現在に至る
岡山の起業家精神	1993（平成 5）年 発刊 山陽新聞社
社会総合研究所	1999（平成 11）年～現在に至る（井尻 昭夫 学長）
オフキャンパスセミナー （現商大講座）	1999（平成 11）年～現在に至る
夕学講座	2003（平成 15）年後期～現在に至る
商大塾	2012（平成 24）年～現在に至る
客員教授	2017（平成 29）年 4 月 近藤 一仁 氏、2018（平成 30）年 5 月 青山 敦子 氏 2022（令和 4）年 4 月 長田 貴仁 氏、2024（令和 6）年 4 月 渡邊 信治 氏
特別研究員	2020（令和 2）年 4 月 馬場 勉 氏、2021（令和 3）年 4 月 小野 陽美 氏
文部科学省 私立大学研究ブランディング事業	2017（平成 29）年度～2019（令和 元）年度
『寄り添い型研究』による地域価値の向上	16 研究テーマ
本学と二松學舎大学との共同研究 出版	
2016（平成 28）年 ショッピングモールと地域	発刊 ナカニシヤ出版
2018（平成 30）年 フードビジネスと地域	発刊 ナカニシヤ出版
2020（令和 2）年 地域と大学	発刊 ナカニシヤ出版
岡山商科大学 地域研究シリーズ	
2021（令和 3）年 笠岡諸島における持続可能社会を基本にした振興策	発刊 ふくろう出版
2021（令和 3）年 令和版 北房お大師巡りマップ	発刊 ふくろう出版
商大レポート	
2024（令和 6）年 vol.1、vol.2	

3. 歴代所長・次長

年 次	所長	次長
1972（昭和 47）年から	久川 武三	鳥越 良光
1977（昭和 52）年から	西岡 正雄	岡本 輝代志
1982（昭和 57）年から	佐伯 信之	堤 一浩 → 橘 晋介 → 知念 裕
1988（昭和 63）年から	国沢 信	知念 裕
1989（平成 元）年から	鳥越 良光	喜田 栄次郎 → 市村 巧
1992（平成 4）年から	岡本 輝代志	田中 勝次 → 長谷川 博史 → 伊藤 治彦
1998（平成 10）年から	吉尾 匡三	井上 省紀
2001（平成 13）年から	中井 透	矢吹 雄平 → 西 敏明 → 島田 伸夫
2007（平成 19）年から	大崎 紘一	川合 一央 → 成澤 寛 → 海宝 賢一郎
2020（令和 2）年から	海宝 賢一郎	吉良 友人

編 集 後 記

本年度も商大レビュー第34号を無事に刊行することができました。ご協力いただいた方々に改めて感謝を申し上げます。

2024年度はトランプ大統領や石破内閣総理大臣の誕生など、様々な大きな出来事があった年でした。特にトランプ氏が大統領に就任したことで、戦争問題・関税問題など、今後経済をはじめとした我々の生活にも大きく関わる変化が訪れるかもしれません。

既に関起こった事象としては、暗号資産やゴールドの価格高騰が挙げられます。例えば、暗号資産について、トランプ氏は暗号資産推奨派として知られており、(これは個人的な見解ですが、) 彼が選挙に勝利したことでBTC(ビットコイン)の価格が過去最高値を大幅に更新しました。BTC以外にもXRP(リップル)などのアルトコインは数か月(あるいは数日・数週間)で価格が数倍になるという急激な価格変動をみせ、トランプ氏の名を冠したTRUMPコインなるものも登場して話題になりました。ゴールドに関しても最高値を更新し、今後の戦争不安の解消の有無などがどのような影響を与えるのか注目しています。

この他にも2024年1月から始まった新NISAや食料品の著しい物価上昇など、2024年度はお金に関する話題が尽きない年であったと思います。老後のために必要であるといわれる貯蓄額が増加している状況を鑑みると、経済や投資に関する知識はこれまで以上に重要なものとなってくるのは間違いありません。また、個人としてだけでなく、地域としても様々なことを見直していく必要があるでしょう。

学生のみなさんには未来のために是非ともより多くの知識と経験を身につけていただきたいと思っています。社会総合研究所においても学生や地域社会のために何ができるのかを考えていく所存でございますので、引き続き、よろしくお願い申し上げます。(Y)

商大レビュー

S h o d a i R e v i e w

Vol.34

2025.3

発行／岡山商科大学

〒700-8601 岡山市北区津島京町2丁目10-1

TEL.086-252-0642 (代)

FAX.086-255-6947

ISSN 1340 2315

編集／岡山商科大学社会総合研究所

TEL.086-256-6656

レイアウト・制作／友野印刷株式会社

岡山商科大学「商大 Blog」

<http://sangakukan2.osu.ac.jp/>

公開講座やフィールドスタディなど、「大学の今」を随時、掲載中!!



◎掲載された記事へのご意見・ご感想等がございましたら E-mail:syaken@po.osu.ac.jp まで



Okayama Shoka University

